一般教育科

1. 教育目標

21世紀を迎えた現代は、過去のどの時代にも見られないほど科学・技術が発達し、また国際化が進んできた。それに比して、人間性はむしろ希薄となり、個人の能力を超えて発達していく科学・技術によって従来の価値観が変えられ、その急激な変化にとまどいを感じている人も少なくない。教育現場では対人関係やアイデンティティの問題にうまく適応できない学生をはじめ、新たに様々な問題が生じているのが現状である。

いかに科学・技術が発達しても、人間そのものが優れた識見と豊かな人間性を備えていなければ、科学・技術を正しく用いることができないということは、過去の歴史が明確に示しているところである。ところが、今日の社会では、すべての分野で細分化と専門化が進行しており、その結果、学校教育もまた細分化、専門化がなされている。このような時代にこそ、全人教育という側面が、学校教育において必要とされるのではないかと我々は考えている。

そうした点から、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成（学校教育法第70条の2）」する専門教科とあいまって、豊かな人間性と優れた識見を備えた学生を育成することが、本校における一般教育科に課せられた責務であると捉えている。本校の使命の一部にある「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」のための一翼を担うことこそ、一般教育科の目指す目標なのである。

高等専門学校は、中学校を卒業した若い15歳の学生を受け入れた後、僅か5年間で社会人として必要な一般教養を習得させ、専門の学芸と職業に必要な能力を身につけた技術者として実社会へ送り出さなければならない。高校卒業の学生を受け入れる大学等に比して、高等専門学校の一般教育科の任務は重大である。

2. 授業内容

本校の一般科目では、人間教育、人格形成を重視し、志操高く、視野広い人間を育成するために国語、歴史、哲学、倫理・社会、政治・経済、法学、地理の人文社会科学系の科目、健全な心身を形成するために体育科目、豊かな情操を育てるために美術、音楽、書道の芸術科目、さらに、専門教育につながる基礎学力の向上を図るものとして、数学、物理、化学の理数系科目が課されている。更に、ますます国際化していく社会に適應できる人間を育成するために、英語などの外国語も重要科目と位置づけている。また、数学においてはよりきめの細かい指導を実現するために、習熟度別授業を導入している。これにより、従来不足しがちであった演習を積極的に取り入れた授業が可能となっている。

別表3 電子情報通信工学系 一般科目

各学科共通

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	国語 I	3	3						
	国語 II	2		2					
	国語 III	2			2				
	社会	地理	2	2					
		歴史 I	2	2					
		歴史 II	2		2				
		公民 I	2		2				
		公民 II	2			2			
	数学	基礎数学 I	3	3					
		基礎数学 II	3	3					
		基礎数学 III	2		2				
		微分積分学 I	4		4				
		微分積分学 II	3			3			
		数学解析	3			3			
		数理演習	1		1				
	理科	物理 I	2	2					
		物理 II	3		3				
		化学 I	3	3					
		化学 II	2		2				
	保健	保健・体育 I	3	3					
		保健・体育 II	2		2				
		保健・体育 III	2			2			
		保健・体育 IV	2				2		
	外国語	英語 I A	4	4					
		英語 I B	2	2					
		英語 II A	3		3				
		英語 II B	2		2				
		英語 III A	2			2			
		英語 III B	2			2			
	英語学演習	2			2				
芸術 I	1	1					音楽・美術・書道から選択		
芸術 II	1		1				音楽・美術・書道から選択		
キャリア概論	1			1			1～3年で履修		
小計		75	28	26	19	2	0		
選択科目	文学特論 II	2				2			
	自然特論	1					1		
	数学概論 I	1				1			
	数学概論 II	1				1			
	数学概論 III	1					1		
	英語特論 I	2				2			
	英語特論 II	2					2		
	中国語 I	2				2			
	中国語 II	2					2		
	社会特論 I	2				2			
	社会特論 II	2					2		
	保健・体育 V	1					1		
	海外英語演習	1					1		
	教育支援活動	1					1	1～5年で履修	
小計		21				10	11		
開設単位合計		96	28	26	19	12	11		

第 1 学 年

科目名	国語 I Japanese I			担当教員	富士原伸弘		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220001	単位区別	履修
学習目標	1. 現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
進め方	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。特に、学習目標のうちA1～B3の項目に重点をおいて授業を進める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. シラバス解説（1） 2. 評論「水の東西」（6） 3. 古文入門・「竹取物語」（7） 4. 漢文入門（7） [前期中間試験]（1）			物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1			
	5. 答案返却・解答（1） 6. 表現1：概説（3） 7. 評論「言語は色眼鏡である」（6） 8. 古文「伊勢物語 東下り」（6） 9. 漢文「論語」（6） 前期末試験			自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 日本古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3 中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3			
	10. 答案返却・解答（1） 11. 表現2：プレゼンテーション演習（3） 12. 評論「なぜ私たちは労働するのか」（6） 13. 古文「伊勢物語 筒井筒」（6） 14. 漢文「漢詩」（6） [後期中間試験]（1）			データを効果的に説明する力を養う。 B3:1-2, C4:1-2 日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2			
	15. 答案返却・解答（1） 16. 表現3：文章表現（1） 17. 小説（一）・（二）を読む（6） 18. 古文「平家物語」（6） 19. 漢文「復活」（6） 後期末試験			自分の考えを正しく表現できる。 B2:1-2 登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2			
	20. 答案返却・解答（1） 21. 表現4：ディベート演習（2）			発言者の意図を正しく理解できる。 B3:1-3			
	評価方法	年4回の定期試験90%、プレゼンテーション演習・ディベート発表・提出物等10%で評価する。					
履修要件	特になし。						
関連科目	国語Ⅰ（1年）→国語Ⅱ（2年）→国語Ⅲ（3年）→文学特論Ⅱ（4年）→文学特論（専攻科2年）						
教材	教科書：精選国語総合 三省堂 中渕正堯他編 参考書：新訂総合国語便覧 第一学習社						
備考	特になし。						

科目名	地理 Geography			担当教員	細谷 守			
学年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220002	単位区別	履修	
学習目標	現代社会の空間事象のあり方，展開の状況を教科書・統計表・地図帳等を通して理解し，関心を持って直視できる姿勢を身につける。又，現代社会には地球的課題が存在し，その解決のためには国際協力が必要であることを理解する。							
進め方	各学習項目ごとに，教科書・地図帳・Aノート他を利用し，キーワードの確認・理解・延長へと学習内容を進めていく。又，授業には参加型学習の形態を取り入れ，興味関心を強めるよう指導する。そして，現代社会の問題点が地域から全体へ，過去から現代に通じるものであるという共時的・通時的考えを身につけさせることにより，我々の行動に責任が要求されていることを自覚させる。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. 球面上の世界と地域構造 (2) 2. 世界地図の種類と特徴 (2) 3. 時差の求め方 (2) 4. 国家と地域区分 (2) 5. 消費行動の変化と地域差 (2) 6. 中国の生活・文化 (2) 7. 東南アジアの生活・文化 (2) ----- [前期中間試験] (1)			地図を利用し地球の特質を理解する。また、世界中での日本の位置の把握と領域等の現状を理解する。 A3:1 中国・東南アジア等の近隣地域の生活・文化の実態を理解し，共生の考えを身につける。 A1:3				
	8. 試験問題の解答 (1) 9. 試験問題の解答，世界を結ぶ交通 (2) 10. 世界を一つに結ぶ通信 (2) 11. 国際化する人々の移動 (2) 12. 拡大する世界の貿易 (2) 13. さまざまな余暇活動 (2) 14. インドの生活・文化 (2) 15. 西アジアの生活・文化 (2)			人・物・情報の移動に伴う世界の結びつきを理解する。 A1:1,A3:2 現代社会における行動権の拡大と地域差，現状を理解する。 A3:1 南アジア・西アジアの地域的特性を理解する。 A1:3				
	前期末試験							
	16. 試験問題の解答 (1) 17. 世界の人口問題 (2) 18. 世界の食料問題 (2) 19. 世界の都市・居住問題 (2) 20. 世界の資源・エネルギー問題 (2) 21. アフリカの生活・文化 (2) 22. ラテンアメリカの生活・文化 (2) ----- [後期中間試験] (1)			気候・気候等の自然環境を学び，人間生活との関わりを理解する。 A3:1 世界に生じている人口・食料・都市・居住・資源・エネルギー問題を理解する。 A3:1				
	23. 試験問題の解答 (1) 24. 近隣諸国の大気汚染への取り組み (2) 25. 近隣諸国の森林破壊への取り組み (2) 26. ヨーロッパの生活・文化 (2) 27. ロシアの生活・文化 (2) 28. アメリカ合衆国の生活・文化 (2) 29. 韓国の生活・文化 (2)			環境問題に関心を深め，宇宙船地球号としての各国の協力と共生による地球環境の維持の大切さを理解する。 A1:2 様々な地域の特徴を理解する。 A1:3				
	後期末試験							
	30. 試験問題の解答 (1)							
	評価方法	定期試験 70%，作業ノート・課題レポートの提出等 30%の比率で総合評価する。						
	履修要件	特になし。						
関連科目	歴史（1年），歴史・倫理社会（2年）→ 政治経済（3年）							
教材	教科書「高等学校 新地理A 初訂版」，「基本地図帳 改訂版」，教材「高等学校 新地理A ノート 初訂版」							
備考	特になし。							

科目名	歴史 I History I			担当教員	内田由理子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220003	単位区別	履修
学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質及び人類の課題を広い視野から多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。また、学習教育目標である「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を、授業を通して培っていく。						
進め方	地球的視点から多面的に物事を考える能力：世界の歴史の展開を、広い視野に立って多面的・多角的に捉えさせ、地球世界の課題についても考察する能力を育成する。年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく。与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を重視するとともに、作業的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 人類の進化(2) 2. 秦漢帝国の成立(2) 3. 魏晋南北朝の動乱(2) 4. 隋唐帝国の成立(2) 5. 征服王朝と宋(2) 6. モンゴル帝国の中国支配(2) 7. メソポタミア文明(2)			農業と牧畜の発生により世界各地に都市文明が生まれていった。また文字は文明を発展させ伝達する役割をはたしていく。このように世界各地には独自の地域世界が形成されていった。人類の残した古代文明と地域世界の展開にはどのような特色がみられるのか、東アジア世界を中心に学ぶ。 A1:3			
	[前期中間試験](1)						
	8. 答案返却・解答(1) 9. オリент世界の統一(6) 10. イスラーム世界の成立と展開(2) 11. ローマ帝国と地中海世界(4) 12. 西ヨーロッパ世界の成立(2)			オリент世界、地中海世界における文明の生成と発展、イスラーム世界の成立と展開について学ぶ。ヨーロッパ世界の地政学的な特質や、ローマ帝国の解体にもなった東西世界の成立について学ぶ。 A1:3			
	前期末試験						
	13. 答案返却・解答(1) 14. ヨーロッパ世界の変動(2) 15. モンゴル帝国の興亡(2) 16. 明清帝国の繁栄(2) 17. ルネサンスと宗教改革(4) 18. 大航海時代とアメリカ・アフリカ(3)			ヨーロッパ世界の政治と経済・社会の大きな変動を学ぶ。 モンゴル発展の背景と展開、明清の政治体制と冊封体制にもとづく国際秩序の形成について学ぶ。 「大航海時代」の背景、世界の一体化の進展について学ぶ。 A1:3			
	[後期中間試験](1)						
	23. 答案返却・解答(1) 25. 絶対王政の時代(4) 26. フランス革命とナポレオン(3) 27. 世界市場の形成と世界の分割(3) 28. 第一次世界大戦とロシア革命(2) 29. 第二次世界大戦と戦後世界の形成と変容(1)			絶対王政の成立と主権国家体制、フランス革命や産業革命が19世紀の欧米諸国に与えた影響、世界資本主義システムの形成、帝国主義の世界分割、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる政治の展開、全地球的規模で取り組まねばならない課題について学ぶ。 A1:3			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答(1)						
評価方法	定期試験, 提出物（ノート, プリント, その他の課題）や学習活動等で総合評価する						
履修要件	特になし						
関連科目	地理（1学年）→国語/漢文（2学年）, 公民Ⅰ→公民Ⅱ（3学年）						
教材	教科書：木畑 洋一 他著「新版 世界史 A」実教出版						
備考	特になし						

科目名	基礎数学 I Fundamental Mathematics I			担当教員	上原成功		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220004	単位区別	履修
学習目標	<p>この教科では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整式を中心とする数と式の基本的な理論 ・ 2次方程式を中心とする方程式や不等式の理論 ・ 関数の概念と、2次関数を中心とする初等的な関数のグラフとその応用 ・ 直線と円を中心に、座標による図形と式の関係とその応用などを学習する。 						
進め方	教科書にそって講義する。基本事項と例題を解説したのち、練習の問題、チェック問題や章末問題のプリント、アクセスノート等を用いた問題演習を行う。また定期的に小テストを実施する。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 数と式(21) (1) 整式(10) (2) 実数(10)			整式の四則(加減乗除)、展開、基本的な因数分解を理解し、計算と基本的な応用ができる。 D1:1-3			
	[前期中間試験] (2)						
	2. 不等式と方程式(12) (1) 不等式(6) (2) 2次方程式(6)			基本的な方程式、不等式が解ける。 D1:1-3			
	3. 2次関数(27) (1) 関数(3) (2) 2次関数のグラフ(6)						
	前期末試験						
	4. 図形と方程式(30) (1) 点と直線(8)			2次関数のグラフを描くことができ、その基本的な応用ができる。 D1:1-3			
	[後期中間試験] (2)						
(2) 試験問題の解答(1) (3) 点と直線(続き)(6) (4) 円(6) (5) 軌跡と領域(8)			座標平面において、点、直線、円、領域などの基本的な取り扱いができる。 D1:1-3 座標平面において、不等式の表す領域を図示することができる。 D1:1-3				
後期末試験							
(6) 試験問題の解答(1)							
評価方法	レポートや演習課題の割合を 20%、小テストを含む試験を 80%として評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学 I, 基礎数学 II} → {基礎数学 III, 微分積分学 I}						
教 材	教科書:「新版数学 I」「新版数学 II」(実教出版) 演習書:「アクセスノート数学 I + A」「アクセスノート数学 II」(実教出版) 参考書:「チャート式基礎と演習 数学 I + A」「チャート式基礎と演習 数学 II + B」(数研出版)						
備 考							

科目名	基礎数学Ⅱ Fundamental Mathematics II			担当教員	橋本竜太, 森岡茂		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220005	単位区別	履修
学習目標	この教科では ・三角関数をはじめとする基本的な関数の定義, 基本性質, グラフとその応用 ・集合, 論理, 場合の数 などを学習する。						
進め方	授業はAとBに分けて, 授業Aは橋本が, 授業Bは森岡が担当する。授業Aでは担当教員が用意するプリント資料に沿って授業を進める。授業Bでは授業Aで学習したことの演習に取り組む。担当教員の指示する予習復習は実践しているものとして授業は進行するので, 授業時間外の学習を怠らないこと。なお, 指定教科書は重要事項がまとめられた事典として利用するので, 授業には必ず持参すること。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 三角関数の学習の前に(3) (1) 三平方の定理(1) (2) 座標平面(2) 2. 三角関数(その1)(22) (1) 度数法と弧度法, 一般角(3) (2) 余弦, 正弦, 正接(10) (3) 簡単な三角方程式, 三角不等式(8) ----- [前期中間試験](2)			三角関数の定義を知っていて, 簡単な値が計算できる。 D1:2 三角関数の基本的なグラフが描ける。 D1:2			
	(4) 試験問題の解答(1) 3. 三角関数(その2)(22) (1) 三角関数の相互関係(3) (2) 加法定理とその応用(9) (3) 総合演習(9) ----- 前期末試験			三角関数の相互関係等の公式を簡単な例に適用できる。 D1:2 加法定理を基本的な問題に適用できる。 D1:2 三角関数を含む簡単な方程式や不等式を解くことができる。 D1:2			
	(4) 試験問題の解答(1) 4. 三角比と図形の計量(16) (1) 正弦定理と余弦定理(4) (2) 三角形の計量(6) (3) 空間図形の計量(2) (4) 円の性質(4) 5. 集合(6) (1) 集合の表し方(5) ----- [後期中間試験](2)			正弦定理と余弦定理を簡単な例に適用できる。 D1:2 集合の記号を知っていて, 簡単な例において, 記号が扱える。 D1:1			
	(2) 試験問題の解答(1) 6. 場合の数(12) (1) 集合の要素の個数(3) (2) 場合の数(3) (3) 順列, 組み合わせ(6) 7. 集合と論証(9) (1) 命題とその真偽(3) (2) 必要条件と十分条件, 否定, 逆, 裏, 対偶(5) ----- 後期末試験			簡単な場合の数が計算できる。 D1:2 順列や組み合わせの記号を知っていて, 簡単な計算ができる。 D1:2 簡単な命題について真偽が判定でき, 必要条件や十分条件が区別できる。 D1:2			
	(3) 試験問題の解答(1)						
	評価方法	4回の定期試験の得点を平均したものを80%, 宿題・小テスト・レポートなどの提出物・授業への取り組みなどを20%で評価することを基本とする。					
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ} → {基礎数学Ⅲ, 微分積分Ⅰ}						
教材	教科書:「新版数学Ⅰ」「新版数学Ⅱ」「新版数学A」(実教出版) 演習書:「アクセスノート数学Ⅰ+A」「アクセスノート数学Ⅱ」(実教出版) 参考書:「チャート式基礎と演習 数学Ⅰ+A」「チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」(数研出版) その他:教員作成プリントなど						
備考							

科目名	物理 I Physics I			担当教員	東田 洋次			
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220006	単位区別	履修	
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、数式として表現することで、科学的な考え方を定着させる。							
進め方	講義内容は概ね教科書の内容に従うが、以下のような順で講義を行うため、必ずノートをとること。 また、宿題を課し、その内容についての小テストを行う。 一方、身近な材料を使った演示実験を取り入れ、物理現象が身近に感じられるように配慮するとともに、科学的な原理を考慮に入れた工作課題も課す。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1.有効数字と単位(2) 2.速さと等速直線運動(2) 3.ベクトルとスカラー(2) 4.速度(1) 5.速度の合成(1) 6.相対速度(2) 7.加速度(1) 8.等加速度直線運動(4) [前期中間試験](1)			速度、加速度を理解し、等速直線運動、等加速度直線運動に関する計算ができる。 D1:1,2				
	9.答案返却・解答(1) 10.力とつり合い(2) 11.力の合成と分解(1) 12.作用と反作用(1) 13.運動の法則(2) 14.運動方程式(2) 15.落体の運動(5) 前期末試験			運動の3法則を理解し、直線運動に関する運動方程式を立てることができる。 D1:1,2				
	16.答案返却・解答(1) 17.力の図示と運動方程式の扱い方(2) 18.水平面上の物体の運動(2) 19.斜面上の物体の運動(2) 20.摩擦があるときの物体の運動(4) 21.空気中・水中の物体の運動(3) [後期中間試験](1)			運動の法則を用いて物体にはたらく力と運動との関係を分析できるようになる。 D1:1,2				
	22.答案返却・解答(1) 23.仕事(1) 24.仕事の原理(1) 25.仕事率(1) 26.運動エネルギー(1) 27.重力による位置エネルギー(1) 28.弾性力による位置エネルギー(1) 29.力学的エネルギー保存則(7) 後期末試験			仕事の計算ができ、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。 D1:1,2				
	30.答案返却・解答(1)							
	評価方法							
	定期試験を80%、平常点（小テスト、宿題、提出物など）を20%の比率で総合評価する。							
	履修要件							
	特になし							
関連科目								
物理 I (1年) → 物理 II (2年), 数理演習(2年)								
教材								
教科書：三浦 昇 他 著 「物理基礎」東京書籍 三浦 昇 他 著 「物理」東京書籍 問題集：数研出版編集部 編 「リードα物理基礎・物理」 数研出版								
備考								
オフィスアワーは、水曜の放課後とする。								

科目名	化学 I Chemistry I			担当教員	中村篤博, 村上公一		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	13220007	単位区分	履修
学習目標	原子, 分子の概念とそれから導かれる近代化学の基本的な考え方と自然観を理解する。また, 授業を通して, 自然に対する興味と探求の姿勢を育成する。						
進め方	教科書と板書を中心に基礎概念・理論を簡潔に解説する。その後, 演習の機会を与え, より一層の理解が深まるような進め方をする。また, 学生の自主的学習のための課題を与え, そのレポートで自主的学習度を追跡する。化学 I A(2時間)と I B(1時間)に分け, I Aは, 物質の変化, I Bは, 物質の構成と化学結合を扱う。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	化学 I A 1. 原子量, 分子量, 式量 (5) 2. 物質量 (5) 3. 化学反応式と物質量 (4)			モルの概念を理解し, 質量, 物質量, 分子量の相互変換ができる。また, 簡単な化学反応式を記述できる。 D1:1-3,D3:1			
	化学 I B 4. 原子とその構造 (3) 5. イオン (2) 6. イオン結合 (2)			原子の構造とイオンについて理解している。また, 陽イオンと陰イオンを自由に組み合わせることができる。 D1:1-3,D3:1			
	[前期中間試験] (2)						
	化学 I A 7. 答案返却・解答 (1) 8. 酸と塩基 (5) 9. 水の電離と水溶液の pH (5) 10. 中和反応と塩 (4)			酸と塩基の性質を説明できる。また, 電離度, pHと中和反応を理解する。 D1:1-3,D3:1			
	化学 I B 11. 答案返却・解答 (1) 12. 混合物と純物質, 物質とその成分 (3) 13. 物質の三態と熱運動 (3)			物質の構成や状態について理解している。また, 簡単な分離や検出法について説明できる。 D1:1-3,D3:1			
	前期期末試験						
	化学 I A 14. 答案返却・解答 (1) 15. 酸化と還元 (4) 16. 酸化剤と還元剤 (4) 17. 金属の酸化還元反応 (4)			酸化還元反応が電子の授受に関連していることを説明できる。 D1:1-3,D3:1			
	化学 I B 18. 答案返却・解答 (1) 19. 周期表 (2) 20. 分子と共有結合 (2) 21. 分子の極性と分子間力 (2)			元素の周期律を理解し, 簡単な化合物の形成を説明できる。 D1:1-3,D3:1			
	[後期中間試験] (2)						
化学 I A 22. 答案返却・解答 (1) 23. 化学共通試験 (1) 24. 電池 (4) 25. 電気分解 (4) 26. 電気分解の量的関係 (4)			簡単な電池の発電理論を説明できる。ファラデーの電気分解の法則を理解し, 簡単な反応に適用できる。 D1:1-3,D3:1				
化学 I B 27. 答案返却・解答 (1) 28. 共有結合の物質 (3) 29. 金属結合と金属 (2)			共有結合と金属結合について理解している。 D1:1-3,D3:1				
後期期末試験							
30. 答案返却・解答 (3)							
評価方法	化学 I Aを 70%、I Bを 30%とする。定期試験を 80%、レポートや演習課題などを 20%で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	化学 I (1年) → 化学 II (2年) → 環境と人間 (4,5年)						
教材	教科書: 化学基礎 数研出版 (104 数研 化基/308)						
備考	オフィスアワーは, 火曜の放課後とする。						

科目名	保健・体育 I Health and Physical Education I			担当教員	有馬弘智, 筒井和代		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220008	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。 団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール 説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 2. 集団行動 (1) 【スポーツテスト】 3. スポーツテスト (4) 【バレーボール】 4. パスの基礎技術(2) 5. スパイク基礎技術(4) 6. ルール説明(1) 7. チーム練習(2) 8. 保健 (7) ----- [前期中間試験]			年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を 理解する。整列隊形や隊形変更など集団での行動を身 につける。自分自身の運動能力を把握し、運動能力の 向上を目指す。 F1:1-4, F2:1-4 バレーボールの基礎技術 (パス, スパイク) を修得 し、ゲームの中で、スパイクを打てるようにする。ま た、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5 【保健】喫煙・飲酒と感染症について理解する A1:2,3			
	9. ゲーム(4) 10. 実技試験(1) 【水泳】 11. 各種目練習(3) 12. リレー・メドレーリレー(2) 13. タイム測定(1) 【鉄棒】 14. 基礎技術の修得(6) 15. 実技試験(1) 16. 保健(8) 前期末試験			水に慣れると共に、各競泳種目を理解し、それらの泳 ぎの向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2 鉄棒の各種目の理論を理解し、反復練習を行うことで それらの種目を習得できるようにする。 F2:1-4, F3:1, 2 【保健】感染症と健康について A1:2,3			
	【バスケットボール】 16. 基礎技術の習得(3) 17. 対人練習 (5) 18. ルール説明 (1) 19. チーム練習 (1) 20. ゲーム(4) 21. 実技試験(1) 22. 保健 (7) ----- [後期中間試験]			バスケットボールの基礎技術 (パス, ドリブル, シュート) を修得し、3ON3の中で、活用できるよ うにする。また、ルールを把握しゲームを運営でき るようにする。 F2:1-4, F3:1-5 【保健】思春期の性と加齢について理解する。 A1:2,3			
	【サッカー】 23. 基礎技術の習得(3) 24. 対人練習 (3) 24. フォーメーションの理論(1) 24. ゲーム(4) 25. 実技試験(1) 26. 【保健】(8) 後期末試験			サッカーの基礎技術 (パス, ドリブル, シュート) を 修得し、ゲームの中で、活用できるようにする。ま た、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5 【保健】いろいろな社会の環境を理解する。 A1:2,3			
	後期末試験						
	後期末試験						
	評価方法	各種目の実技試験と平常点 (出席率, 授業態度) で総合評価を行う。					
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」(総合版) 大修館書店, 教科書「現代保健」(改訂版) 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語 I A English IA			担当教員	森 和憲・鳥越秀知・Johnston Robert		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220009	単位区別	履修
学習目標	読む、書く、聞く、話す、の英語の4技能の全体的な向上を目指し、基本的なコミュニケーション能力の育成を図る。これらの技能の養成の基礎として、基本的な文法や語彙の知識が必要とされるので、語彙や英文法の知識の修得も図る						
進め方	(森) 文法の演習問題を課題として与え、その解説を中心に授業を行う。定期的に単語の暗記テストを行う。定期的に英文法の小テストを行う (鳥越) 週1時間は、教科書を使ったリスニング、音読、暗唱、口頭発表等を単独授業で行う。週1時間はネイティブ講師とのティームティーチングによって、リスニングやスピーキングを中心に行う。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	文法学習 (14) (文型・動詞・時制・完了形) Scene 1~3 (7) Lesson 1~4 (7)			基本的な文法項目を理解することができる B1:1,2 簡単な英語表現を組み立てることができる B2:1,2 簡単な英語表現を発話できる B2:1,2			
	[前期中間試験] (2)						
	試験問題の解説 (2) 文法学習 (13) (助動詞・態・不定詞・動名詞) Scene 4~6(7) Lesson 5~8 (6)			基本的な文法項目を理解することができる B1:1,2 簡単な英語表現を組み立てることができる B2:1,2 簡単な英語表現を発話できる B2:1,2			
	前期末試験						
	試験問題の解答 (2) 文法学習 (13) (比較・分詞・関係詞・仮定法) Scene 7~8(7) Lesson 9~12 (6)			基本的な文法項目を理解することができる B1:1,2 簡単な英語表現を組み立てることができる B2:1,2 簡単な英語表現を発話できる B2:1,2			
	[後期中間試験] (2)						
	試験問題の解答(2) 文法学習 (13) (時制の一致・応用英文法) Scene 9~10(7) Lesson 13~16 (6)			基本的な文法項目を理解することができる B1:1,2 簡単な英語表現を組み立てることができる B2:1,2 簡単な英語表現を発話できる B2:1,2			
	後期末試験						
評価方法	(森和) 中間・期末試験を80%、小テスト10%・提出物等を10%の比率で総合評価する。 (鳥越) 定期試験・インタビューテスト80%、課題・取組態度など20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 I B						
教材	亀山太一『COCET2600 理工系学生のための必修単語 2600』(成美堂) 池田善明『シードグラマー 22ユニット』(文芸堂) 鈴木希明『単語から文へ組み立てる英文法練習帳』(桐原書店) 岡秀夫他『Departure Oral communication 1 Revised Edition』(大修館) 桐原書店編集部 Hyper Listening Introductory 3rd Edition (桐原書店)						
備考	特になし						

科目名	英語 I B English I B			担当教員	畑 伸興		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220010	単位区別	履修
学習目標	読む、書く、聞く、話す、の4技能全ての向上を目指し、基本的な語学力(英検3級から準2級程度)を身につける。 さらに、青年期の学生にふさわしい内容の教材を用い、英語を通じての人的成長を目指す。						
進め方	①読解の教科書を使用し、読解力の強化を図る。 ②英文法・語法の問題集を使用し、文法力の強化を図る。 ③単語集を使用し、単語力の強化を図る。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	①Lesson 1-3 (15)			①読解力の強化を図るために、英文法を中心に学習する。 B1:2 ②文法力の強化に努める。 B1:2 ③語彙力の強化に努める。 B1:2			
	----- [前期中間試験]						
	試験問題の解答 (1) ①Lesson 4-5 (14)			①読解力の強化を図るために、英文法を中心に学習する。 B1:2 ②文法力の強化に努める。 B1:2 ③語彙力の強化に努める。 B1:2			
	前期末試験						
	試験問題の解答 (1) ①Lesson 6-8 (14)			①読解力の強化を図るために、英文法を中心に学習する。 B1:2 ②文法力の強化に努める。 B1:2 ③語彙力の強化に努める。 B1:2			
	----- [後期中間試験]						
	試験問題の解答 (1) ①Lesson 9-10 および Reading (14)			①読解力の強化を図るために、英文法を中心に学習する。 B1:2 ②文法力の強化に努める。 B1:2 ③語彙力の強化に努める。 B1:2			
後期末試験							
試験問題の解答 (1)							
評価方法	年4回の定期試験を80%、授業への取り組み状況20%(ノート・プリント点検および提出物)で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 I B						
教 材	①Power On Communication English I (東京書籍)および同ワークブック ②同ワークブック(Grammar Based) ③COCCET2600 (1年英語 I A でも使用)						
備 考	定期試験だけではなく、日頃の授業も大切であるので、いつも勉強意欲をもってほしい。						

科目名	芸術 I (音楽) Art I (Music)			担当教員	穴吹昌子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	13220011	単位区別	履修
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。音楽に対する関心を高め、想像力豊かな有為な人格を育成する。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的技能と表現能力を伸ばす。 ・音に対する敏感な感性を育てる環境に配慮する。 						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 発声の基本, 校歌	(2)		正しい姿勢や呼吸法を身に付ける。			
	2. 歌唱・器楽	(3)		歌と楽器による表現の違いを感じ取る。			
	3. 鑑賞	(2)		歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			

	4. 歌唱・器楽	(5)		歌と楽器による表現の違いを感じ取る。			
	5. 鑑賞	(1)		歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			
	6. 試験	(2)					
	7. 歌唱・器楽	(6)		歌と楽器による表現の違いを感じ取る。			
	8. 鑑賞	(1)		歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			

9. 歌唱・器楽	(4)		歌と楽器による表現の違いを感じ取る。				
10. 鑑賞	(2)		歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2				
11. 試験	(2)						

評価方法	試験・提出物で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術科目						
教材	教科書：「MOUSA I」 教育芸術社						
備考	特になし						

科目名	芸術 I (美術) Art I (Fine Arts)			担当教員	永井 崇幸		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220012	単位区分	履修
学習目標	写実描写、構想画、デザイン画などの絵画表現や鑑賞を通して、創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。言葉では表現できないことを感じる美意識を深める。						
進め方	相対するイメージを比較することでその本質を見定め、イメージを膨らませて自己の表現を追求させる。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 鉛筆デッサン— ペンを持った手 (1)			鉛筆で明暗をつけ、手の立体感と質感を表現する。 2つの異なる物質を表現する際には、質感や大きさなどが相互に関わりあうことを知る。 E6:1			
	2. 記憶の絵地図 (5) 着彩			自分がすごした幼児期・年少期を思い出し、他の人が見てわかりやすい表現をする。 自宅周辺をあらゆる絵画表現方法を使って、分かりやすく楽しい絵地図として表現する。 B2:1			
	3. 構成と表現 (1) 色彩の学習 (1) (2) 「楽しい」と「悲しい」の表現 (3) 着彩 (3) 「寒い」と「暖かい」の表現 (5) 着彩 (4) 「軽い」と「重い」の表現 (6) 着彩			色の知覚・心理的効果を学習して、効果的な色彩表現を学ぶ。 E6:1 枠の中に着色できる。混色ができる。 比較することで観念的でないイメージを膨らませる。 形と色によって、言葉で表現できない表現が可能であることを認識する。			
4. 精密描写 (10) 鉛筆デッサン、着彩			身近にある工業製品の精密描写を試みることで機能美、材質の特性、ロゴマーク、配色などを学習し、立体的な表現が出来る。 B2:1 デッサンをして立体感のある表現をする。 何度も塗り重ねる透明水彩の技法を習得する。 E6:1				
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価 (90%) (作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%)、制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術I(美術)(1年) → 芸術II(美術)(2年)						
教材	スケッチブックと絵の具(アクリルガッシュ)を購入。(2年間使用)						
備考	自主的に美術館・ギャラリーなどの鑑賞を奨励。鑑賞レポートは随時受け、評価の対象にします。単位追認は、未提出・未完成の作品を全て完成させて提出する。						

科目名	芸術 I (書道) Art I (Calligraphy)			担当教員	正田幸子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220013	単位区別	履修
学習目標	<p>国語科書写では、文字を正しく整えて書くことを目標としたが、芸術科書道では、書写の能力をさらに高め、書の美を追求していくことを目指す。</p> <p>書の表現と鑑賞の基礎能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、芸術としての書の美を学ばせ、書を愛好する心情を養う。</p>						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 ・表現力を高め豊かにするには、すぐれた書を鑑賞し感性を養うことを心がけるようにする。 						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 書の美を求めて	(1)		書の美とは何かを考えさせる	A3:1		
	2. 楷書の学習の基本	(2)		書の基本形を把握する	B2:1		
	3. 厳正な楷書と温雅な楷書 九成宮醜泉銘と孔子廟堂碑の鑑賞と臨書	(2)		古典の臨書を通して、用筆、運筆、点画の形や線質、字形など表現技法を学習する。	B1:1		
	4. 重厚な楷書と軽快な楷書 建中告身帖と雁塔聖教序の鑑賞と臨書	(2)					

	5. 行書の特徴	(1)		創作の手順を理解し作品づくりをする。	B2:1		
	6. 蘭亭序の鑑賞	(1)					
	7. 蘭亭序の臨書 (半紙)	(2)					
	8. 蘭亭序の臨書 (画仙紙半切)	(4)					

	9. 行書による創作	(2)		「いろは歌」により基本的なものを身につける。	B1:1		
	10. 平仮名の単体	(2)					
	11. 変体仮名	(3)					

12. 連綿	(2)		連綿の方法や仮名の流動美を理解する。	A1:3			
13. 漢字仮名交じりの書の学習	(2)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づける	B2:1			
14. 古名跡を応用しての表現	(2)						
15. 用筆・運筆および用具・用材の工夫	(2)						

評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教材	教科書：角井博他著「書道 I」 教育出版						
備考	特になし						

第 2 学 年

科目名	国語Ⅱ JapaneseⅡ			担当教員	東城 敏毅		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220014	単位区別	履修
学習目標	1. 現代文や古典の読解を通して、他人のものの見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
進め方	講義形式を基本とする。また論述演習・発表演習・相互議論も随時授業内に組み入れる。原則として週に1回漢字テストを実施する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス（2） (1) 現代文ガイダンス (2) 古典ガイダンス 2. 評論Ⅰ（8） (1) 「身体像の近代化」 3. 古文Ⅰ（4） (1) 「梓弓」（伊勢物語）			物事の核心を把握する方法を身につける。 A3:1-2 日本人の思考・現代的な思考について考える。 A3:1-2 日本の古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3			
	[前期中間試験]（1）						
	4. 試験問題の解答（1） 5. 古文Ⅱ（14） (1) 「能登殿の最期」（平家物語） (2) 「短歌の技法」（和歌から現代短歌へ） 1			日本の古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3			
	前期末試験						
	6. 試験問題の解答（1） 7. 古文Ⅲ（4） (1) 「短歌の技法」（和歌から現代短歌へ） 2 8. 評論Ⅱ（9） (2) 「動物のことば・人間のことば」			日本人の思考方法を知り、自我意識の変革を促す。 A1:3, A3:1-2 中国の古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3			
	[後期中間試験]（1）						
	9. 試験問題の解答（1） 10. 表現Ⅰ・小説Ⅰ（13）—「レキシントンの幽霊」 (1) 読解講義 (2) プレゼンテーション演習 (3) 相互議論・ディベート演習 (4) レポート作成			多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 データを効果的に説明する力を養う。 C1:1-2, C4:1-4 発言者の意図を正しく理解できる。 B1:1-2, B3:1-3 簡潔に記述する力を養う。 B2:1-2			
	後期末試験（レポート2編）						
	11. レポート採点評価と本年度のまとめ						
評価方法	評価の内訳： 定期試験 70%，授業内演習・提出物 20%，漢字テスト 10%						
履修要件	特になし。						
関連科目	国語Ⅰ（1年）→国語Ⅱ（2年）→国語Ⅲ（3年）→文学特論Ⅱ（4年）→文学特論（専攻科2年）						
教材	教科書：高等学校現代文改訂版 三省堂 柴田武他編 教科書：新編古典 筑摩書房 鈴木日出男他編 漢字：【精選】速修常用漢字 [改訂版] 文英堂 谷本 文男 参考書：新訂新国語便覧 第一学習社						
備考	特になし。						

科目名	歴史Ⅱ History II			担当教員	内田由理子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220015	単位区別	履修
学習目標	我が国の歴史の展開を、我が国を取り巻く国際環境などとも関連づけながら世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化、伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。						
進め方	地球的視点から多面的に物事を考える能力：我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って多面的・多角的に捉えさせ、21世紀の課題についても考察する能力を育成する。年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく。与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を重視するとともに、作業的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 縄文時代の社会(2) 2. 弥生時代の社会(2) 3. 大和政権の成立と勢力伸張(2) 4. 飛鳥時代の政治(2) 5. 律令国家の成立(2) 6. 奈良時代の社会(2) 7. 平安初期の政治(2)			旧石器時代から平安時代までの日本列島における社会・文化について、東アジア世界の動向と関連付けを踏まえて、原始社会の時期、国家の形成と律令体制の確立の時期、律令体制の変質の時期の3つの構成から学ぶ。 A1:3			
	[前期中間試験](1)						
	8. 答案返却・解答(1) 9. 摂関政治の展開(2) 10. 院政と平氏政権(2) 11. 鎌倉幕府の成立と発展(2) 12. 室町幕府の成立と発展(2) 13. 下剋上の社会(2) 14. 戦国の動乱(2) 15. 大航海時代の余波(2)			武家政権の成立から戦国時代までの社会・文化における武士が政治力をつけていく過程について、武家政権の成立期と武家政権の成長期の構成の中、世界的視野と国内諸地域への視点を踏まえて学ぶ。 A1:3			
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答(1) 17. 織豊政権の成立(2) 18. 江戸幕府の成立(2) 19. 幕藩体制の展開(2) 20. 幕政の改革と衰退(2) 21. 開国と社会の変動(2) 22. 尊王攘夷から倒幕(3)			織豊政権から江戸時代における社会・文化について、封建的支配体制が作り上げられる幕藩体制の確立、町人文化が生み出された幕藩体制の展開、列強の接近に伴う幕藩体制の動揺の3つの構成から世界史的な流れと関連させて学ぶ。 A1:3			
	[後期中間試験](1)						
	23. 答案返却・解答(1) 24. 明治維新と新政府の成立(3) 25. 欧米文化の導入(2) 26. 自由民権運動の展開(2) 27. 日清・日露戦争, 第一次世界大戦(3) 28. 政党政治の発展と大衆社会(2) 29. 現代の世界と日本(1)			明治時代から第二次世界大戦後の日本の歴史の展開について、近代日本が形成されていく過程と国際社会における日本の立場と対外政策の変化、今日に至る世界の動向と日本の課題及び役割について学ぶ。 A1:3			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答(1)						
評価方法	定期試験, 提出物(ノート, プリント, レポート類) や学習活動等で総合評価する						
履修要件	特になし						
関連科目	世界史(2学年)→政治経済(3学年)						
教材	教科書: 宮原武夫 他著「高校日本史B」実況出版						
備考	特になし						

科目名	公民 I Civics I			担当教員	山岡 健次郎, 石丸 健		
学 年	2年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220016	単位区別	履修
学習目標	自己と社会との関係性を倫理的観点から考察していく。そのさい、「他者」や「自然」や「科学」といった問題性に着目する。過去の哲学者・思想家の思索に具体的に触れることで、最終的に自分自身で考える力を養うことを目指す。						
進め方	教科書および担当教員の作成する資料をもとにして、講義形式で進める。 テーマを設定し、討論も交えながら、倫理的問題に対する視角を深めていく。 なお、定期試験のほかに適宜レポートなどの課題も課していく。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 「倫理」とは (2) 2. <わたし>とは何か (3) 3. 身体と性 (2) 4. 障害を捉え直す (2) 5. 死について (2) 6. 私たちの生きる社会 (2) 7. 変貌する家族 (2)			倫理社会で何を学ぶのかを理解する。 自己への問いかけを通して、自分自身を見つめ自分たちを取り巻く様々な環境の中で、他者と共に生きる大切さを理解させる。 A1:3			
	[前期中間試験] (1)						
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 情報社会の中で (2) 10. 社会との関わりの中で (2) 11. 生命倫理に関して (2) 12. 命の意味 (2) 13. 環境倫理を考える (2) 14. 伝統の継承と発展 (1) 15. 共存する社会 (3)			現代社会の中で生じている様々な倫理的課題を理解する。 A1:1,2 A3:1,2			
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答 (1) 17. ギリシャ人の人間観 (2) 18. キリスト教の展開 (3) 19. インドの思想の展開 (2) 20. 仏教の思想 (2) 21. 日本の伝統思想と民衆の思想 (2) 22. 西洋科学の受容と近代への準備 (3)			古代宗教に対する理解を深める。 A3:1,2 「日本」という思想的土壌の特質を知る。 A3:1			
	[後期中間試験] (1)						
	23. 答案返却・解答 (1) 24. ソクラテス, プラトン (2) 25. アリストテレス (3) 26. 近代の幕開け (2) 27. デカルトと科学革命 (3) 28. カントの認識論 (2) 29. 実存主義をめぐって (1)			哲学の発生と変遷をたどる。 A3:2 善く生きることの意義を考について考察する。 A3:1 近代科学の誕生に立ち会う。 A3:1			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験を主たる評価とし、レポートを加味する						
履修要件	特になし						
関連科目	歴史・地理 (1学年) → 歴史 (2学年) → 公民II (3学年)						
教 材	教科書: 鷲田清一 監修『倫理』教育出版						
備 考	特になし						

科目名	基礎数学Ⅲ Fundamental Mathematics III			担当教員	中空大幸			
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220017	単位区別	履修	
学習目標	この教科では ・ベクトルの性質と図形への応用 ・複素数と方程式 などを学習する。							
進め方	授業は教科書やプリントなどを中心教材として、講義と演習をおりまぜて行う。小テスト、レポート、提出課題などを適宜課すことがある。進度が速いので、予習復習は必須。とくに、授業時間内でなくてもできる計算練習には、授業時間外に各自で取り組むことが要求される。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. 複素数と方程式、式と証明(24) (1) 整式と除法(2) (2) 分数式(2) (3) 恒等式(2) (4) 複素数(3) (5) 2次方程式(5) ----- [前期中間試験](2)			分数式の基本的な四則演算ができる。 D1:1,2 2次方程式を扱うことができる。 D1:1-3				
	(6) 試験問題の解答(1) (7) 因数定理(2) (8) 高次方程式(2) (9) 式と証明(5) 2. 指数・対数(19) (1) 指数の拡張(6) 前期末試験			因数定理を活用することができる。 D1:1,2 式の証明の基本的な方法を扱うことができる。 D1:1-3				
	(2) 試験問題の解答(1) (3) 指数関数(4) (4) 対数(4) (5) 対数関数(4) 3. 平面上のベクトル(17) (1) ベクトル(3) ----- [後期中間試験](2)			指数に関する基本的な計算ができる。 D1:1,2 対数に関する基本的な計算ができる。 D1:1-3				
	(2) 試験問題の解答(1) (3) ベクトルの演算(4) (4) ベクトルの成分(4) (5) ベクトルの内積(4) 後期末試験			ベクトルの基本的な演算ができる。 D1:1,2 ベクトルを用いて平面図形の基本的な性質を調べることができる。 D1:1-3				
	(6) 試験問題の解答(1)							
	評価方法	4回の定期試験の得点を平均したものを90%、宿題・小テスト・レポートなどの提出物・授業への取り組み等を10%で評価する。						
	履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ} → {基礎数学Ⅲ, 微分積分学Ⅰ} → {微分積分学Ⅱ, 数学解析}							
教材	教科書:「新版数学Ⅱ」「新版数学B」(実教出版) 演習書:「アクセスノート数学Ⅱ」「アクセスノート数学B」(実教出版) 参考書:「改訂版チャート式基礎と演習数学Ⅱ+B」(数研出版) その他, 配布プリントなど							
備考								

科目名	微分積分学 I Differential and Integral Calculus I			担当教員	南貴之, 上原成功, 橋本竜太		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220018	単位区別	履修
学習目標	この教科では ・微分積分のための準備 ・微分積分について, 概念の理解, 用語・記号・定義式・公式への習熟と, 基本的な計算と応用などを学習する。						
進め方	教科書にそって講義する。基本事項と例題を解説したのち, 練習問題, チェック問題や章末問題のプリント, アクセスノート等を用いた問題演習を行う。また定期的の小テストを実施する。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 数列 (32) (1) 数列とその和 (2) いろいろな数列 ----- [前期中間試験] (2)			簡単な数列の和が求められる。 D1:3			
	(2) 試験問題の解答 (1) (3) 数学的帰納法 2. 関数 (12) (1) 分数関数 (2) 無理関数 (3) 逆関数と合成関数 3. 極限 (38) (1) 数列の極限 前期末試験			数学的帰納法を用いて簡単な命題の証明ができる。 D1:3 いろいろな関数を扱うことが出来る。 D1:3			
	(2) 試験問題の解答 (1) (3) 関数の極限 (4) 関数の連続性 4. 微分法 (22) (1) 微分係数 (2) 関数の微分法 (3) 合成関数と逆関数の微分法 ----- [後期中間試験] (2)			数列及び関数の極限が計算できる。 D1:3 いろいろな関数の導関数が計算できる D1:3			
	(4) 試験問題の解答 (1) (5) 三角関数の導関数 (6) 対数関数と指数関数の導関数 (7) 高次導関数 (8) 逆三角関数とその導関数 5. 平面上の曲線と微分法 (16) (1) 2次曲線 (2) 曲線の方程式と微分法 (3) 媒介変数表示 (4) 媒介変数で表された関数の導関数 (5) 極座標 後期末試験						
	(6) 試験問題の解答 (1)						
	評価方法 定期試験 90%程度, 残りをレポート, 小テスト, 宿題, 演習などで総合評価する。						
	履修要件 特になし						
	関連科目 {基礎数学 I, 基礎数学 II} → {基礎数学 III, 微分積分学 I} → {微分積分学 II, 数学解析}						
教材	教科書:「新版数学B」,「新版数学III」(実教出版) 演習書:「アクセスノート数学B」,「アクセスノート数学III」(実教出版) 参考書:「チャート式基礎と演習 数学II+B」,「チャート式基礎と演習 数学III」(数研出版)						
備考							

科目名	教理演習 Science Seminar			担当教員	秋元秀美		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	13220019	単位区別	履修
学習目標	演習形式で実際に問題を解く事により, 1,2年で学ぶ理数系教科の基礎学力を定着する。						
進め方	毎回, 学習項目に沿った内容の小テストを行い, その解説を行う。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 力学 I (8) (1) 物体の運動 (2) 落下問題 (3) 力のつりあい (4) 運動の法則 (5) 力学的エネルギー ----- [前期中間試験](1)			速度, 加速度, 運動の法則を理解し, さまざまな運動において運動方程式を立てて, 解くことができる。 D1:1,2 仕事の計算ができ, 力学的エネルギーの保存則を用いた計算ができる。 D1:1,2			
	2. 答案返却・解説(1) 3. 力学 II (8) (1) 運動量と力積 (2) 円運動 (3) 単振動 (4) 万有引力 前期末試験			運動量, 力積を理解し, 運動量保存則を用いた計算ができる。 D1:1,2 円運動など力の向きが一定でない物体の運動に関する計算ができる。 D1:1,2			
	4. 答案返却・解説(1) 5. 波動(5) (1) 波の性質 (2) 音波 (3) 光波 ----- [後期中間試験](1)			波動の概念を理解し, 典型的な例である音波, 光波の性質について理解し, 計算できる。 D1:1,2			
	6. 答案返却・解説(1) 7. 熱力学(5) (1) 熱とエネルギー (2) 気体の変化と分子運動 (3) 気体の状態変化 後期末試験			熱力学の基本的な法則を理解し, 熱力学量を計算できる。 D1:1,2			
	8. 答案返却・解説(1)						
	評価方法			定期試験 50%, 平常点(小テストや課題提出等)50%の比率で総合的に評価する。			
	履修要件			特になし			
関連科目			物理(1年) → 物理(2年), 教理演習(2年)				
教材			教科書: 三浦登他 著 「物理基礎」「物理」 東京書籍				
備考							

科目名	物理Ⅱ PhysicsⅡ			担当教員	東田洋次, 秋元秀美		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	13220020	単位区分	履修
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、数式として表現することで、科学的な考え方を定着させる。						
進め方	講義内容は概ね教科書の内容に従うが、以下のような順で講義を行うため、必ずノートをとること。物理ⅡA(2時間)とⅡB(1時間)に分けて授業を行い、物理ⅡAの後期末は、1・2年生で学習した物理の集大成として、3・4人のグループで学習内容に関する実験を行い、実験レポート提出を課す。						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	物理ⅡA 1.平面上の運動(2) 2.等速円運動(4) 3.惑星の運動, 万有引力(4) 4.単振動(4)			円運動, 万有引力, 単振動のような力の向きが一定でない物体の運動を理解し, 各種の物理量を計算できる。 D1:1,2			
	物理ⅡB 5.運動量と力積, 運動量保存の法則(5) 6.反発係数(2)			運動量, 力積の概念を習得し, 運動量保存の法則や反発係数を用いた計算ができる。 D1:1,2			
	[前期中間試験](2)						
	物理ⅡA 7.答案返却・解答(1) 8.直線上を伝わる波の表し方とその性質(3) 9.波の重ね合わせ, 定常波, 反射[固定端, 自由端](4) 10.平面・空間を伝わる波[反射, 屈折, 回折, 干渉](4) 11.音波とその性質[反射, 屈折, 回折, うなりなど](3)			波の基本的な概念や性質を習得し, その典型的な例である音の性質についても習得する。 D1:1,2			
	物理ⅡB 12.答案返却・解答(1) 13.温度と内部エネルギー(3) 14.熱量保存, 熱容量, 比熱(3)			熱と温度の基本的な関係を理解し, 比熱・熱容量・熱量の基本とその使い方について習得する。 D1:1,2			
	前期末試験						
	物理ⅡA 15.答案返却・解答(1) 16.弦や気柱の固有振動, ドップラー効果(5) 17.光波とその性質[反射, 屈折, 分散, 偏光など](6) 18.光の回折, 干渉[ヤング, 回折格子, 薄膜](3)			波の典型的な例である音や光の性質について習得し, 関係した現象を説明できる。 D1:1,2			
	物理ⅡB 19.答案返却・解答(1) 20.熱力学第1法則と気体のする仕事(3) 21.気体の状態変化[定積, 定圧, 等温, 断熱変化](3)			熱力学第1法則を理解し, それを用いて気体の状態変化に関する各種の物理量を計算できる。 D1:1,2			
	[後期中間試験](2)						
物理ⅡA 22.答案返却・解答(1) 23.実験[A:密度測定, B:向心力, C:重力加速度](3) 24.実験[D:サールの実験, E:固体の比重](3) 25.実験[F:熱膨張係数, G:固体の比熱](3) 26.実験[H:熱の仕事当量など](3)			実験手法, 実験器具の使用法, 実験レポートの作成方法を習得する。 B1:2,B2:1,B3:1,C1:1,D5:2,E1:1,2,E6:1-3				
物理ⅡB 27.答案返却・解答(1) 28.熱機関と熱力学第2法則(3) 29.気体分子の熱運動(3)			熱現象に特有な不可逆性について理解し, 熱機関と熱効率の考え方を習得する。 D1:1,2				
後期末試験							
30.答案返却・解答(1)							
評価方法	物理ⅡAを70%、ⅡBを30%とする。定期試験を80%、平常点(小テスト, レポート, 演習課題など)を20%の比率で総合評価する。ただし、物理ⅡAの後期末は、実験レポートで評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	物理Ⅰ(1年) → 物理Ⅱ(2年), 数理演習(2年)						
教材	教科書: 三浦 昇 他 著 「物理基礎」 「物理」 東京書籍 実験書: 下村 健次 他 著 「基礎物理学実験」 共立出版 問題集: 数研出版編集部 編 「トライアルノート物理Ⅰ」 「トライアルノート物理Ⅱ」 数研出版						
備考	オフィスアワーは、水曜の放課後とする。						

科目名	化学Ⅱ Chemistry II			担当教員	中村篤博		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	13220021	単位区分	履修
学習目標	物質の状態変化によって起こる諸現象について理解し、反応一般論として反応速度、化学平衡の法則を理解する。有機化学では、有機化合物の体系的把握をし、その性質、反応性が主として各種官能基、結合種、分子構造によることを理解する。また、実験を通して、既習の化学知識の実験と実験技術を習得する。						
進め方	教科書と板書を中心に基礎概念・理論を簡潔に解説する。その後、演習の機会を与え、より一層の理解が深めることができるように進める。また、実験を行うことで、講義で扱った内容を体験するとともに、方法、結果、考察などをレポートとしてまとめる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 粒子の結合と結晶の構造(4) (1) 化学結合 (2) 分子の極性と分子間力			原子の構造と電子配置の規則性を理解し、簡単な化合物の形成を説明できる。 D1:1-3,D3:1			
	2. 物質の三態(6) (1) 粒子の熱運動 (2) 三態の変化			化学反応における量的な関係と反応熱を理解する。また、物質の状態変化と、その性質について理解する。 D1:1-3,D3:1			
	3. 気体(5) (1) 気体の体積 (2) 気体の状態方程式						
	[前期中間試験](1)						
	4. 答案返却・解答(1)						
	5. 溶液(5) (1) 溶解のしくみと溶解度 (2) 希薄溶液の性質 (3) コロイド溶液			気体の温度、体積、圧力の関係について理解する。また、溶解の仕組みと溶液の性質を理解し、各種計算問題を解くことができる。 D1:1-3,D3:1			
	6. 化学反応とエネルギー(5) (1) 熱化学方程式 (2) ヘスの法則						
	7. 化学実験①(4)			化学実験操作を習得するとともに、結果に対して簡単な考察を加えることができる。 D1:1,3,E1:1,2			
	前期期末試験						
	8. 答案返却・解答(1)						
	9. 化学反応の速さとしくみ(5) (1) 反応速度の表し方 (2) 反応条件と反応速度 (3) 反応の仕組みと反応速度			化学反応を起こすための仕組みを理解し、反応速度を変えるための条件を説明できる。また、平衡状態を理解し、平衡の移動を判断できる。 D1:1-3,D3:1			
	10. 化学平衡(5) (1) 可逆反応と化学平衡 (2) 平衡の移動と平衡定数 (3) 電解質溶液の化学平衡						
	11. 化学実験②(4)			化学変化を注意深く観察し、実験操作や結果を適切にまとめることができる。 D1:1,3,E1:1,2			
	[後期中間試験](1)						
12. 答案返却・解答(1)							
13. 化学共通試験(1)							
14. 有機化合物(12) (1) 有機化合物の性質 (2) 脂肪族炭化水素 (3) アルコールと関連化合物 (4) 芳香族化合物 (5) 有機化合物と人間生活			各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。また、各種有機化合物間の関係について理解している。 D1:1-3,D3:1				
後期期末試験							
15. 答案返却・解答(1)			高分子化合物を中心として、身の周りの物質を化学的に説明することができる。 D1:1-3,D3:1				
評価方法	定期試験を 80%、レポートや演習課題などを 20% で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	化学Ⅰ(1年) → 化学Ⅱ(2年) → 環境と人間(4,5年)						
教材	教科書：化学 数研出版(104 数研 化学/306)						
備考	オフィスアワーは、火曜の放課後とする。						

科目名	保健・体育Ⅱ Health and Physical EducationⅡ			担当教員	横山学		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220022	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。 団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール 説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【ソフトボール】 2. 捕球・送球の基礎技術(2) 3. バッティングの基礎技術(2) 4. ルール説明(1) 5. ゲーム(5) 6. 実技試験 (1) 【マット運動】 7. 基礎技術の修得(7) 8. 実技試験(1) ----- [前期中間試験]			年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を 理解する。 F2:1-4 ソフトボールの基礎技術（捕球・送球・バッティ ング）を理解し、向上を目指す。また、ルールを把握し ゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5 マット運動の基礎技術を修得し、自己の能力に適した 技を選んだ上で、連続的に表現できるようにする。 F3:1, 2			
	9. 各種目練習(3) 10. リレー・メドレーリレー(2) 11. タイム測定(1) 【陸上競技】 12. 3種競技の基礎技術(8) ----- 前期末試験			水に慣れると共に、各競泳種目を理解し、それらの泳 ぎの向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2 個人の運動能力を向上させると共に、走跳投 3 種目の 技術を修得する。 F2:1-4, F3:1, 2			
	13. 記録測定(3) 【スポーツテスト】 14. 記録測定(3) 【サッカー】 15. パス・トラップ練習(1) 16. ルール説明・ゲーム(8) ----- [後期中間試験]			毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
	17. 実技試験(1) 【バスケットボール】 18. 対人練習(1) 19. シュート練習(1) 20. ルール説明(1) 21. ゲーム(6) 22. 実技試験(1) ----- 後期末試験			ルールとシステムを理解し、ゲームを運営できるよ うにする。 F3:1-5 2人以上のプレイを理解し、ゲームの中で活用でき るようにする。また、ルールを把握し、ゲームを運営で きるようにする。 F2:1-4, F3:1-5			
	----- 後期末試験						
	----- 後期末試験						
	----- 後期末試験						
	----- 後期末試験						
	----- 後期末試験						
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語ⅡA EnglishⅡA			担当教員	畑 伸興・鳥越 秀知		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220023	単位区別	履修
学習目標	英語でのコミュニケーションに必要な基本的な文法力及びリスニング能力の定着を目指す。						
進め方	①読解の教科書を使用し、読解力の強化を図る。 ②英文法・語法の問題集を使用し、文法力の強化を図る。 ③聴解の教科書を使用し、聴解力の強化を図る。 ④単語集を使用し、単語力の強化を図る。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	①Chapter 1-5 (14) ③Unit 1-3 (8) ----- [前期中間試験]			①読解力の強化を図るために、英文法を中心に学習する。 B1:2 ②文法力の強化に努める。 B1:2 ③聴解力の強化に努める。 B1:1,2 ④語彙力の強化に努める。 B1:2			
	試験問題の解答 (1) ①Chapter 6-10 (14) ③Unit 4-6 (7) ----- 前期末試験			①読解力の強化を図るために、英文法を中心に学習する。 B1:2 ②文法力の強化に努める。 B1:2 ③聴解力の強化に努める。 B1:1,2 ④語彙力の強化に努める。 B1:2			
	試験問題の解答 (1) ①Chapter 11-15 (14) ③Unit 7-9 (7) ----- [後期中間試験]			①読解力の強化を図るために、英文法を中心に学習する。 B1:2 ②文法力の強化に努める。 B1:2 ③聴解力の強化に努める。 B1:1,2 ④語彙力の強化に努める。 B1:2			
	試験問題の解答 (1) ①Chapter 16-20 (14) ③Unit 10-13 (7) ----- 後期末試験			①読解力の強化を図るために、英文法を中心に学習する。 B1:2 ②文法力の強化に努める。 B1:2 ③聴解力の強化に努める。 B1:1,2 ④語彙力の強化に努める。 B1:2			
	試験問題の解答 (1)						
評価方法	年4回の定期試験を80%、授業への取り組み状況20%(ノート・プリント点検および提出物)で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語ⅠA・B(1年) → 英語ⅡA(2年) → 英語ⅢA・B(3年)						
教材	①Polish Up Your English (成美堂) ②英文法・語法[頻出問題]600の基礎演習 (文英堂) ③『HyperListening Elementary 3rd Edition』(桐原書店) ④COCCE2600 (1年次で使用)						
備考	定期試験だけではなく、日頃の授業も大切であるので、いつも勉強意欲をもってほしい。						

科目名	英語ⅡB English ⅡB			担当教員	出淵 幹郎		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220024	単位区別	履修単位
学習目標	読む、書く、聞く、話す、の英語の4技能全ての向上を目指し、基本的な語学力（英検準2級から2級程度）および教養を身につける。さらに、青年期の学生にふさわしい内容の教材を用い、英語を通じての人的成長を目指す。						
進め方	高校検定教科書を用い、読む・聞く・書く・話す能力をバランスよく訓練する。 語彙、リスニング、文法の小テストを適宜行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1, Lesson 1 Greetings from the Heart (7) 2, Lesson 2 New Rules for Themselves (7)			<ul style="list-style-type: none"> 基本的な文型が理解できる。 助動詞の用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2			
	----- [前期中間試験] (1)						
	1, Lesson 3 Messages from the Sea (5) 2, Lesson 4 A Model of the Atomic Bomb Dome (5) 3, Reading 1 The Case of the Missing Will (5)			<ul style="list-style-type: none"> 分詞構文の基本的用法が理解できる。 過去分詞の基本的用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2			
	前期末試験						
	1, Lesson 5 Kaneko Misuzu (7) 2, Lesson 6 Wonders of Memory (7)			<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞の用法が理解できる。 関係代名詞の非制限用法が理解できる。 現在完了進行形の用法が理解できる。 過去完了進行形の用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2			
	----- [後期中間試験] (1)						
	1, Lesson 7 Nowhere Man (5) 2, Lesson 8 Aboriginal Art in Australia (5) 3, Reading 2 The Weeping Camel (5)			<ul style="list-style-type: none"> 仮定法過去の用法が理解できる。 仮定法過去完了の用法が理解できる。 さまざまな仮定法の表現が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2			
後期末試験							
評価方法	各試験の評価の内訳は定期試験80%、提出物や小テスト20%とする。 10月に実施するTOEIC Bridgeの結果を学年成績評価に10%程度加える。						
履修要件	なし。						
関連科目	英語Ⅰ						
教材	EXCEED English Series Ⅱ（三省堂）、ワークブック						
備考	オフィスアワーは放課後随時（18時までに来室のこと）						

科目名	芸術Ⅱ（音楽） ArtⅡ（music）			担当教員	穴吹昌子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	13220025	単位区別	履修
学習目標	音楽の諸活動を通して、個性豊かな表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う						
進め方	多様な音楽を教材として取り入れ、それぞれの音楽の価値を認めつつ、芸術性豊かなものへと目指していく						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 歌唱・器楽	(2)		声の世界と楽器の世界を通して、豊かな音楽への表現を目指す。 古代ギリシャから現代までの西洋音楽の流れを理解する。 A1:3 B1:1,2 B2:1,2			
	2. 鑑賞	(5)					

	3. 歌唱・器楽	(2)		声の世界と楽器の世界を通して、豊かな音楽への表現を目指す。 古代ギリシャから現代までの西洋音楽の流れを理解する。 A1:3 B1:1,2 B2:1,2			
	4. 鑑賞	(4)					
	5. 試験	(2)					

	6. 歌唱・器楽	(2)		声の世界と楽器の世界を通して、豊かな音楽への表現を目指す。 古代ギリシャから現代までの西洋音楽の流れを理解する。 A1:3 B1:1,2 B2:1,2			
	7. 鑑賞	(5)					

8. 歌唱・器楽	(2)		声の世界と楽器の世界を通して、豊かな音楽への表現を目指す。 古代ギリシャから現代までの西洋音楽の流れを理解する。 A1:3 B1:1,2 B2:1,2				
9. 鑑賞	(4)						
10. 試験	(2)						

評価方法	試験・提出物で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術科目						
教材	教科書：「MOUSA I」 教育芸術社						
備考	特になし						

科目名	芸術Ⅱ(美術) ArtⅡ(Fine Arts)		担当教員	永井 崇幸			
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220026	単位区分	履修
学習目標	構想画、デザイン画、あらゆる表現方法による絵画表現を通して、個々の創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。イメージを膨らませて、自主的に創造する価値と喜びを感じさせる。						
進め方	絵画表現を通して、独自のイメージを膨らませ、自己の表現を追求させる。						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 構想画 - 未来都市を描く(10) 着彩			<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿ったイメージは、どのようにして引き出すことができるかを考える。 ・CGの発達により、意識のないままに仮想現実(バーチャルリアリティ)があふれていることを認識する。それらのイメージを再構成して、独自のイメージとして表現することができる。 ・幾つかの制作条件のもとで、未来の都市空間を豊かなイメージを膨らませて表現することができる。 ・直線・曲線を使い分けて建造物と都市空間を表現することができる。 <p style="text-align: right;">E6:1 B2:1</p>			
	2. デザインと描写 はめ絵「理想の世界」 一定められた空間の構成(10) 着彩			<ul style="list-style-type: none"> ・自分でデザインする外形を決定する。 ・指定された条件下で定型の形を生かして表現することができる。 ・デザインの的な色面構成の中に精密な描写をすることができる。 ・制作に必要な資料を準備し、テーマに沿った表現が出来る。 <p style="text-align: right;">E6:1 B2:1</p>			
	3. 自由制作 (10) 着彩			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の制作に必要な参考の資料を準備する。 ・あらゆる絵画表現手段を用いて作品制作する。 ・自分の定めたテーマを感性豊かに表現することができる。 <p style="text-align: right;">E6:1 B2:1</p>			
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価(90%) (作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%)、制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。						
履修要件	美術Ⅰを履修している。						
関連科目	芸術Ⅰ(美術)(1年) → 芸術Ⅱ(美術)(2年)						
教材	スケッチブックと絵の具(アクリルガッシュ)を購入。(2年間使用)						
備考	自主的に美術館・ギャラリーなどの鑑賞を奨励。鑑賞レポートは随時受け、評価の対象にします。単位追認は、未提出・未完成の作品を全て完成させて提出する。						

科目名	芸術Ⅱ（書道） Art II (Calligraphy)			担当教員	正田幸子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220027	単位区別	履修
学習目標	これまでの学習内容と関連づけながら、表現と鑑賞の能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、書の美への探求がより充実、深化したものとなるようにする。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 ・多様な書の美への関心と鑑賞の必要性を理解させ、美を追求する姿勢を確立させる。 						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 書の美を求めて (1)	(1)		書が求める美とは何かを考える	A3:1		
	2. 篆書の学習(1) さまざまな篆書	(1)					
	3. 石鼓文の鑑賞と臨書	(2)		特徴を確かめ、その特性を確認する	A3:1		
	4. 金文の鑑賞と臨書	(2)		それぞれの特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする	A3:2		

	5. 隷書の学習 さまざまな隷書	(1)		特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする	A3:2		
	6. 隷書の特徴	(2)		特徴を確かめ、その特性を確認する	A3:2		
	7. 曹全碑の鑑賞と臨書	(2)					
	8. 行草書の学習(4) 風信帖の鑑賞と臨書	(4)					
9. 行書の創作	(3)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。	B2:1			
10. 楷書の学習 整齊の美と均衡の美	(3)						
11. 仮名の書の学習 種類、特徴	(2)						

12. 漢字仮名交じりの書の学習	(1)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。	B2:1			
13. 書体の趣を生かした表現の工夫	(2)						
14. 古名跡を応用しての表現	(2)						
16. 全体構成の工夫	(2)						

評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教材	教科書：今井凌雪著「新編 書道Ⅱ」 教育出版						
備考							

第 3 学 年

科目名	国語Ⅲ JapaneseⅢ			担当教員	東城 敏毅, 富士原 伸弘		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220028	単位区別	履修
学習目標	1. 現代文や古典の読解を通して, 他人のものの見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
進め方	講義形式を基本とする。また論述演習・発表演習・相互議論も随時授業内に組み入れる。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. ガイダンス (2) 2. 古典Ⅰ (1 2) (1) 漢文の基礎 (2) 四面楚歌			中国の古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3			
	[前期中間試験] (1)						
	3. 試験問題の解答 (1) 4. 評論Ⅰ (1 2) (1) 「生活のデザインをめぐって」 5. 表現Ⅰ (2) (1) 「生活のデザイン」に関する小論演習			日本人の思考方法を知り, 自我意識の变革を促す。 A1:3, A3:1-2 多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 データを効果的に説明する力を養う。 C1:1-2, C4:1-4			
	前期末試験						
	7. 試験問題の解答 (1) 8. 古典Ⅱ (1 3) (1) 源氏物語の基礎 (2) 「小柴垣のもと」			日本の古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3 日本人の思考・現代的な思考について考える。 A3:1-2			
	[後期中間試験] (1)						
11. 試験問題の解答 (1) 12. 評論Ⅲ (10) (1) 「私の個人主義」 13. 表現Ⅱ (3) (1) 「私の個人主義」に関する小論演習			日本人の思考方法を知り, 自我意識の变革を促す。 A1:3, A3:1-2 多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 データを効果的に説明する力を養う。 C1:1-2, C4:1-4				
後期末試験							
14. 試験問題の解答 (1)							
評価方法	評価の内訳: 定期試験 70%, 授業内演習 10%, 提出物 20%						
履修要件	特になし。						
関連科目	国語Ⅰ (1年) → 国語Ⅱ (2年) → 国語Ⅲ (3年) → 文学特論Ⅱ (4年) → 文学特論 (専攻科2年)						
教材	教科書: 新編現代文改訂版 三省堂 柴田武他編 教科書: 新編古典 筑摩書房 鈴木日出男他編 参考書: 新訂新国語便覧 第一学習社						
備考	特になし。						

科目名	公民Ⅱ CivicsⅡ			担当教員	山岡健次郎		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220029	単位区別	履修
学習目標	政治経済に関する固定的な知識を学ぶのではなく、揺れ動く状況を読み解く眼を養っていく。 とりわけグローバル化の進行する現代社会にあつては、既存の認識枠組みはもはや有効性を失いつつある。 国家単位の発想をいかに乗り越えるのか、という視点が問題の核をなす。						
進め方	前期は政治に関する認識を深めていき、後期は経済事象を理解する力を養っていく。 授業は、配布されるプリントを中心に進めていく。 さらに、できるだけ時事的な事象を取り上げ、メディアの読み解き方を紹介していく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 授業の目的（1） 2. 政治とは何か（3） 3. 政治的思考の特質（2） 4. 政治的リアリズム（2） 5. 憲法とは何か（2） 6. 基本的人権（2） 7. 統治機構（2）			政治という人間活動の特徴を原理的に理解する。 A2:1 政治的判断の特色と困難について学ぶ。 A1:3 日本国憲法における基本的人権と公共の福祉との関係性について考察する。 A3:3			
	[前期中間試験]（2）						
	8. 試験問題の解答（1） 9. 平和主義（2） 10. 現代型政治的無関心（2） 11. 政党とはなにか（2） 12. ナショナリズムについて（2） 13. 日本のナショナリズム（2） 14. メディアと政治（2） 15. 戦争と平和（2）			民主主義における政党の役割について再考する。 ナショナリズムの両義性を理解する。 A1:3 メディア・リテラシーを養う。 A2:2, A3:2			
	前期末試験						
	16. 試験問題の解答（1） 17. グローバリゼーションという視座（2） 18. 多国籍企業という戦略（2） 19. 資本主義経済システム（2） 20. 労働力の商品化（3） 21. 労働者と近代家族（1） 22. 資本主義のあらたな「外部」（2） 23. 越境する人々（2）			グローバル化する経済の動きを考察する。 企業の多国籍化という現象を理解する。 A1:2 資本の蓄積過程を把握し、労働力商品化のプロセスを論理的に説明できる。 A3:1 資本がグローバル化する過程を動的に捉える。 A3:1			
	[後期中間試験]（2）						
	24. 試験問題の解答（1） 25. グローバルな労働力市場の成立（3） 26. 政治と経済の相克（2） 27. 会社とはなにか（3） 28. 日本型会社経営と日本のサラリーマン（3） 29. まとめ（2）			労働力の越境化という現象を理解する。 A1:3 株式会社の仕組みを知る。 会社のかたちと労働のかたちの関連性について学ぶ。 A1:1			
	後期末試験						
	試験問題の解答（1）						
評価方法	4回の定期試験の平均点で評価						
履修要件	特になし						
関連科目	地理（1年）→歴史（2年）、公民Ⅰ（2年）→社会特論（5年）						
教材	教科書：「高等学校 改訂版 新政治・経済」（第一学習社）						
備考	特になし						

科目名	微分積分学Ⅱ Differential and Integral Calculus II			担当教員	田村恭士, 南貴之		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220030	単位区別	履修
学習目標	この教科では、微分積分Ⅰに引き続き、微分積分のより進んだ内容と応用（関数の増減、面積、体積など）を学習する。						
進め方	指定教科書にそって学習内容を解説して行く講義形式。各自の自主的な学習が必要なのはいうまでもなく、練習問題を通して学習内容の定着を目指す。前期は2年生の微分積分学の続きを学習する。後期では偏微分及び2重積分をも取り扱う。基本的な概念の理解の上で、さまざまな計算ができることを重視する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 微分法の応用(18) (1) 接線と法線 (2) 平均値の定理 (3) 関数の増加・減少と極大・極小 (4) 関数のグラフ (5) いろいろな応用 (6) 曲線の媒介変数表示			微分係数の意味を理解し、接線と法線の方程式を計算できる。 D1:3 基本的な関数の極値を計算できる。 D1:3			
	2. 不定積分(13) (1) 不定積分とその性質 ----- [前期中間試験] (2)			基本的な関数の不定積分を計算できる。 D1:3			
	(2) 試験返却・解答 (3) 置換積分法と部分積分法 (4) いろいろな関数の不定積分			置換積分法と部分積分法を用いて基本的な関数の不定積分を計算できる。 D1:3			
	3. 定積分(17) (1) 定積分とその性質 (2) 定積分の置換積分法・部分積分法 (3) 定積分で表された関数			基本的な関数の定積分を計算できる。 D1:3 置換積分法と部分積分法を用いて基本的な関数の定積分を計算できる。 D1:3			
	前期末試験						
	(4) 試験返却・解答 (5) 定積分と和の極限 (6) 定積分と不等式			定積分を用いて色々な極限の計算ができる。 D1:3			
	4. 積分法の応用(19) (1) 面積 (2) 体積 (3) 曲線の長さ (4) 微分方程式 ----- [後期中間試験] (2)			簡単な図形の面積や体積が計算できる。 D1:3 簡単な微分方程式を解くことができる。 D1:3			
	(5) 試験返却・解答						
	5. 偏微分法(10) (1) 2変数関数の定義、極限 (2) 学習到達度試験(*) (3) 偏導関数 (4) 接平面 (5) 合成関数の微分法			偏微分の意味を理解し、基本的な2変数関数の偏導関数を計算できる。 D1:3			
6. 重積分法(13) (1) 2重積分の定義 (2) 2重積分の計算 (3) 積分順序の交換			基本的な2重積分が計算できる。 D1:3 積分順序の交換を計算できる。 D1:3				
後期末試験							
(4) 試験返却・解答							
評価方法	定期試験 90%, レポートなどを 10%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ} → {基礎数学Ⅲ, 微分積分学Ⅰ} → {微分積分学Ⅱ, 数学解析} → 応用数学						
教材	教科書:「数学Ⅲ」(実教出版), 高遠節夫他著「新訂 微分積分Ⅱ」(大日本図書) 演習書:「アクセスノート数学Ⅲ」(実教出版), 高遠節夫他著「新訂 微分積分Ⅱ 問題集」(大日本図書) 参考書:「チャート式基礎と演習 数学Ⅲ+C」(数研出版)						
備考	(*)は学習到達度試験が「微分積分学Ⅱ」の時間に実施される場合に適用。						

科目名	数学解析 Mathematical Analysis			担当教員	中空大幸		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220031	単位区別	履修
学習目標	この教科では行列，行列式，線形変換の理論とその基本的な応用などを学習する。						
進め方	講義形式で行うが，その内容は教員からの一方的な説明のみで身につくものではない。授業の進度に合わせて受講生各自が予習復習をすることを前提として講義を進める。必要に応じて演習を行ったりレポートを課したりする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 平面のベクトル（つづき）(7) (1) 位置ベクトル(2) (2) 平面図形の性質(2) (3) ベクトル方程式(3)			ベクトルの平面図形への応用ができる。 D1:3			
	2. 空間ベクトル(15) (1) 空間座標(3) (2) 空間のベクトル(5) (3) 位置ベクトル(2) (4) いろいろな応用(4)			空間のベクトルの演算ができる。 D1:2			
	[前期中間試験](2)						
	5. 試験問題の解答(1)						
	3. 行列(20) (1) 行列の定義(1) (2) 行列の和・差，数との積(3) (3) 行列の積(3) (4) 転置行列，逆行列(4) (5) 連立1次方程式と消去法(4) (6) 逆行列と連立1次方程式(4)			行列の基本的な演算ができる。 D1:2 行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。 D1:2,3			
	前期末試験						
	(7) 試験問題の解答(1)						
	4. 行列式(18) (1) 行列式の定義，行列式の性質(4) (2) 行列の積の行列式(2) (3) 行列式の展開，行列式と逆行列(4) (4) 連立1次方程式と行列式(4) (5) 行列式の図形的意味(4)			行列式の定義および性質を理解し，行列式の値を求めることができる。 D1:1,2 クラメルの公式を用いて連立1次方程式を解くことができる。 D1:1-3			
	5. 線形変換(11) (1) 線形変換の定義と性質(3)			平面上の線形変換に関する計算ができる。 D1:1,2			
[後期中間試験](2)							
(2) 試験問題の解答(1)							
(3) 合成変換と逆変換(3)							
(4) 回転を表す線形変換，直交変換(4)							
(5) 学習到達度試験(*)							
6. 固有値と固有ベクトル(19) (1) 固有値と固有ベクトル(4) (2) 行列の対角化，対角化可能な条件(4) (3) 対称行列の対角化(5) (4) 対角化の応用(5)			正方行列の固有値や固有ベクトルを求めることができる。 D1:1,2 正方行列の対角化を計算できる。 D1:1,2 2次形式の標準形や正方行列のべき乗を求めることができる。 D1:1-3				
後期末試験							
(5) 試験問題の解答(1)							
評価方法	定期試験 90%，レポートなどを 10%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学Ⅰ，基礎数学Ⅱ} → 基礎数学Ⅲ → 数学解析 → 応用数学						
教材	教科書：「新版数学B」（実教出版），高遠節夫他著「新 線形代数」（大日本図書） 演習書：「アクセスノート数学B」（実教出版），高遠節夫他著「新 線形代数 問題集」（大日本図書） 参考書：「チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」「チャート式基礎と演習 数学Ⅲ+C」（数研出版） その他，教員作成プリントなど						
備考	(*)は学習到達度試験が「数学解析」の時間に実施される場合に適用。						

科目名	保健・体育Ⅲ Health and Physical Education Ⅲ			担当教員	福濱孝志		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220032	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。 団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール 説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【スポーツテスト】 2. 記録測定(3) 【ソフトボール・テニス選択】 3. 選択授業の説明、種目の決定(1) 4. ゲーム(10) 5. 実技試験(1) ----- [前期中間試験]			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえ るようにする。 F2:1-4 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4 ルールを把握した上で、自分たちで試合を運営でき ることを目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	【水泳】 6. 競泳種目の練習および遠泳(2) 【ゴルフ・バドミントン・卓球選択】 7. 選択授業の説明、種目の決定(1) 8. ゲーム(ゴルフは基本スイング)(10) 9. 実技試験(1) ----- 前期末試験			水に慣れると共に、泳力(持久力)の向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2 基礎技術を修得すると共に、ルールと理論を理解し、 ゲームが行なえるようにする。 F2:1-4, F3:1-5			
	【バレーボール・バスケットボール選択】 10. 選択授業の説明、種目の決定(1) 11. ゲーム(13) 12. 実技試験(1) ----- [後期中間試験]			1・2年時に基礎技術を修得しているので、ゲーム中 心の内容で、チームの戦術の向上、審判技術の向上を 目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	【サッカー・ゴルフ選択】 13. 選択授業の説明、種目の決定(1) 14. ゲーム(13) 15. 実技試験(1) ----- 後期末試験			サッカーは、1・2年時に基礎技術を修得しているの で、ゲーム中心の内容で、チームの戦術の向上、審判 技術の向上を目指す。またゴルフでは、バードゴルフ などを取り入れて実践的なことを体験する。 F2:1-4, F3:1-5			
	後期末試験						
	後期末試験						
評価方法	各種目の実技試験と平常点(出席率, 授業態度)で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」(総合版) 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語 IIIA English IIIA			担当教員	鳥越 洋子		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220033	単位区別	履修
学習目標	文法の理解を増し、単語を覚えることで英語への知識を深める。英語をより良く理解し、英作文や英文の読解が容易になることを目標とする。						
進め方	授業では英語特有の文法構造を理解し、確認のための問題練習として、英語構文や表現を学習しながら、主に文法事項の問題を解く。また、コミュニケーションの手段としての英語を伸ばすために、聴解演習を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. シラバス解説	(1)		文・動詞・文型を理解させる		B1: 1, 2	
	2. 文の種類	(6)		動詞と時制を理解させる		B1: 1, 2	
	3. 文の要素と文型	(6)					
	4. 時制	(6)					
	5. 試験範囲のまとめ	(3)					

	[前期中間試験]			(1)			
	6. 答案返却・解答	(1)		完了形を理解させる。		B1: 1, 2	
	7. 完了形	(5)		助動詞を理解させる。		B1: 1, 2	
8. 助動詞	(9)		態を理解させる。		B1: 1, 2		
9. 動詞の態 (1)	(3)						
10. 試験範囲のまとめ	(3)						
前期末試験							
11. 答案返却・解答	(1)		不定詞を理解させる。		B1: 1, 2		
10. 動詞の態 (2)	(3)		動名詞を理解させる。		B1: 1, 2		
11. 不定詞	(9)		EL 動名詞を理解させる。		B1: 1, 2		
12. 動名詞	(3)						
13. E L 動名詞	(3)						
14. 試験範囲のまとめ	(3)						

[後期中間試験]			(1)				
15. 答案返却・解答	(1)		分詞を理解させる。		B1: 1, 2		
16. 分詞	(10)		比較を理解させる。		B1: 1, 2		
17. 比較	(7)						
18. 試験範囲のまとめ	(3)						
後期末試験							
19. 答案返却・解答	(1)						
評価方法	定期試験 80%, 取り組み態度, レポートなどを 20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語III B (3年)						
教材	『Dual Scope English Grammar in 27 Stages』 数研出版 『Workbook for Dual Scope English Grammar in 27 Stages』 数研出版 『Hyper Listening PLUS Elementary』 桐原書店						
備考	特になし						

科目名	英語 III B English III B			担当教員	下林 千賀子		
学 年	3 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220034	単位区別	履修
学習目標	英文の読解が容易になることを目標とする。英文を読みながら、文法を把握し単語を覚えることで英語をより良く理解し、基本的語学力を高める。また背景知識を深め視野を世界に広げることを目標とする。						
進め方	新出単語や熟語の意味を調べ、英文の内容を理解していく。英語の語順に従って意味をとらえていくフレーズリーディングの練習を行うとともに、パラグラフごとの英文の内容をつかむことができるようにする。重要語句とターゲットの文法を学習し理解する。 エクササイズ、ワークブックで自己演習をする						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. Crossing the Border(9) 2. Outside the Box (5) ----- [前期中間試験] (1)			<ul style="list-style-type: none"> ・強調構文(It is that)が理解できる ・現在完了進行形 B1:1-2 B2:1-2 ・S+V+O (Whether SV) が理解できる。 ・前置詞+関係代名詞が理解できる。 ・S+V+O(whether S+V) が理解できる。 ・不定詞の受身が理解できる。B1:1-2 B2:1-2 			
	試験問題の解答 (1) 1. Outside the Box (4) 2. Mars-The only way out (10)			<ul style="list-style-type: none"> ・未来完了形が理解できる。 ・未来進行形が理解できる。 ・不定詞 結果 が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2 			
	前期末試験						
	試験問題の解答 (1) 1. Mysteries of the Mona Lisa (9) 2. Wilderness in a bottle(5) ----- [後期中間試験] (1)			<ul style="list-style-type: none"> ・so/neither + (助) 動詞+主語が理解できる。 ・複合関係詞が理解できる。 ・比較級 が理解できる。 ・助動詞 would 丁寧な言い方が理解できる。 ・仮定法過去完了が理解できる B1:1-2 B2:1-2 			
	試験問題の解答 (1) 1. Wilderness in a bottle(4) 2. Zero Landmines (9)			<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞 should 万一が理解できる。 ・仮定法現在が理解できる。 ・完了形の分詞構文が理解できる。 ・不定詞の完了形が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2 			
	後期末試験						
	答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験 80%， 取り組み態度， レポートなどを 20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 III A						
教 材	Crown English Series [II] ワークブック (三省堂)						
備 考	英和辞書を持参すること						

科目名	語学演習 Language Seminar			担当教員	森 和憲		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220035	単位区別	履修
学習目標	TOEICをはじめとする英語資格試験のリスニング、リーディング、文法問題に対応できる、基本的かつ総合的な英語能力を習得する						
進め方	1. リーディング教材を解く 2. 多読教材を読み、読書記録をつける 3. 文法の演習問題を課題として与える						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	多読・文法学習・スニング（14） 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 教科書 Day 1-5			自分に合ったレベルの本を選び、その内容を理解することができる 読書記録を続けて、学習を自己管理できる。 文法問題を解くことでコミュニケーション能力の基礎を築く 短い英文で自分の言いたいことを表現する B1:1-2 B2:1-2			
	[前期中間試験] (1)						
	試験問題の解説 (1) 多読・文法学習・スニング (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 教科書 Day 6-10			自分に合ったレベルの本を選び、その内容を理解することができる 読書記録を続けて、学習を自己管理できる。 文法問題を解くことでコミュニケーション能力の基礎を築く 短い英文で自分の言いたいことを表現する B1:1-2 B2:1-2			
	前期末試験						
	試験問題の解説 (1) 多読・文法学習・スニング (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 教科書 Day 11-20			自分に合ったレベルの本を選び、その内容を理解することができる 読書記録を続けて、学習を自己管理できる。 文法問題を解くことでコミュニケーション能力の基礎を築く 短い英文で自分の言いたいことを表現する B1:1-2 B2:1-2			
	[後期中間試験] (1)						
試験問題の解説 (1) 多読・文法学習・スニング (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出			自分に合ったレベルの本を選び、その内容を理解することができる 読書記録を続けて、学習を自己管理できる。 文法問題を解くことでコミュニケーション能力の基礎を築く 短い英文で自分の言いたいことを表現する B1:1-2 B2:1-2				
後期末試験							
試験問題の解説 (1)							
評価方法	中間・期末試験を70%、小テスト20%・提出物等を10%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語ⅢA 英語ⅢB						
教材	Katsuhiko Muto 『Mastery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary Target 400』（ピアソン桐原） 瓜生豊 『FocusFinder 英文法・語法問題 大学入試攻略のための焦点189』（ピアソン桐原）						
備考	特になし						

科目名	キャリア概論 Career Support			担当教員	担任		
学年	1,2,3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義, 実習	科目番号	13220036	単位区別	履修
学習目標	キャリアアップにつなげるための基礎的な学習・体験を通じて、社会性・人間性を育てると共に、将来の進路設計の具体化ならびに職業観・勤労観を養い育てる。						
進め方	1 学年から 3 学年の各学年において、年間 10 単位時間を当て、キャリア発達支援に関する講義・実習などの授業を受ける。年度初めに実施する項目を提示する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 1. 高専1年生の心構え 2. 高専生の進路 3. ビジメスマナーとは、挨拶の大切さとは 4. 身だしなみの基本とは 5. 社会人としての言葉づかいとは、よく使う敬語 6. 学生と社会人(職業人)の違いとは 7. 働くとは(働く意味を考え直そう) 8. 仕事とは 9. コミュニケーションとは 10. 非言語コミュニケーションとは			自己とは何かを考えることができる。 E6:1 高専生活への適応を図ることができる。 E1:1 自然、人間、社会に触れることができる。 自らの進路決定の準備(1) 高専生の進路について知っている。 D3:1 働くことの意味とすばらしさを考えることができる。 A1:1, A2:2 企業が求める人材は、知的能力, EQ の高い人, コンピテンシーの高い人であることを知っている。 D3:1			
	2 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 11. 人間関係の基本とは 12. 自分を知る, 相手を知るとは 13. チームワークとは 14. 効果的なコミュニケーションとは 15. 科学的仕事とは 16. 時間管理の基本スキルとは 17. コミュニケーションの方法とは 18. ファイリングの仕事とは 19. リーダーシップとは 20. リーダーシップとフォロアーシップとは			自立心を育てることができる。 E6:2 自分と他人との関係を考えることができる。 E1:2 自然、人間、社会について考えることができる。 自らの進路決定の準備(2) 高専生の進路について具体的に理解できる。 E1:2 技術者として働くことの意味を考えることができる。 A1:1-2 知的能力, EQ, コンピテンシーについて理解できている。 D3:1			
	3 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 21. 正解のない社会とは 22. 組織とは 23. 企業とは 24. 企業の目的とは 25. 利益追求活動とコストとは 26. 企業の社会的責任(CSR)とは 27. 職業倫理とは 28. 新入社員の役割とは 29. 自己啓発のすすめとは 30. 高学年に向けての心構え			自己を見つめることができる。 E6:3 社会と自分との関わりを自覚することができる。 E1:2 現代社会の様々な問題に目を向けることができる。 自らの進路決定の準備(3) 自分の進路を考えることができる。 E1:2 技術者として働くことの意味を考えることができる。 A1:1-2, A2:2 知的能力, 感情能力, コンピテンシーを高める努力をすることができる。 E6:1			
評価方法	・評価は合否とし、100点法では評価しない。出席状況、レポート提出状況をみて総合的に判定する。 ・1学年から3学年までの3年間における全てのレポートが提出なされていない場合は、不合格とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	特別活動(ホームルーム)						
教材	教科書:「高等専門学校生のキャリアプラン」 三好章一, 渡部章, 渡部博子共著 実業之日本社発行						
備考							

第 4 学 年

科目名	保健・体育IV Health and Physical EducationIV			担当教員	有馬弘智・横山学		
学年	4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220037	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は下級生の時に修得しているので、ゲーム中心の内容で授業を行なう。その中で各 種目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度 を取り入れ、自分の興味ある種目を選択させることで、社会体育への継続を目指す。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【スポーツテスト】 2. 記録測定(3) 【ソフトボール・テニス選択】 3. 選択授業の説明、種目の決定(1) 4. ゲーム(11)			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえ るようにする。 F2:1-4 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4 ルールを把握した上で、自分たちで試合を運営でき ることを目指す。 F2:1-4, F3:1, 2			
	[前期中間試験]						
	5. 実技試験(1) 【ゴルフ・バドミントン・卓球選択】 6. 選択授業の説明、種目の決定(1) 7. ゲーム（ゴルフは基本スイング）(11) 8. 実技試験(1)			基礎技術を修得すると共に、ルールと理論を理解し、 ゲームが行なえるようにする。 F2:1-4, F3:1, 2			
	前期末試験						
	【バレーボール・バスケットボール選択】 9. 選択授業の説明、種目の決定(1) 10. ゲーム(13) 11. 実技試験(1)			1・2年時に基礎技術を修得しているので、ゲーム中 心の内容で、チームの戦術の向上、審判技術の向上を 目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	[後期中間試験]						
【サッカー・ゴルフ選択】 12. 選択授業の説明、種目の決定(1) 13. ゲーム(13) 14. 実技試験(1)			サッカーは、1・2年時に基礎技術を修得しているの で、ゲーム中心の内容で、チームの戦術の向上、審判 技術の向上を目指す。またゴルフでは、バードゴルフ などを取り入れて実践的なことを体験する。 F2:1-4, F3:1, 2				
後期末試験							
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	文学特論Ⅱ Japanese Literature II			担当教員	富士原 伸弘, 東城 敏毅		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220038	単位区別	履修
学習目標	日本文学の原点ともいえる作品である『古事記』『万葉集』(古代日本文学)の読解を中心に,種々の文学やその理論にも触れることで,創造的な発想力や思考の柔軟性を養い,視点の取り方の方法を学ぶ。また,日本語による表現力・討論力の向上も目的とする						
進め方	講義と演習(論述)を行う。						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. ガイダンス(2) 2. 『万葉集』を読む(28) (1) 『万葉集』の基本と「訓む」ことについて (2) 木簡の意義—役人の文書と「歌木簡」— (3) 讃岐の万葉集—柿本人麻呂と沙弥島— (4) 額田王—熟田津と夜の船出— (5) 有間皇子挽歌—政権と万葉集— (6) 持統天皇と藤原宮 —皇位継承問題と奈良時代の宮都— (7) 山部赤人—叙景歌の成立— (8) 山上憶良—貧困・生病老死を詠む意義— (9) 大伴家持—「天平万葉」の時代—			日本文化の基層をなす和歌について学ぶ。 A1:3, A3:1-2 様々な和歌の中で問題点は何かを考える。 B1:1-2 自分の考えを要領よくまとめる。 B2:1-2 説明内容を理解させる工夫をする。 B3:1-3			
	前期末試験						
	3. 試験問題の解答(1) 4. 『古事記』『日本神話』を読む(16) (1) 日本神話概説 (2) 古事記の成立・古事記と日本書紀 (3) 「伊耶那岐と伊耶那美、黄泉国訪問」 (4) 「天照と須佐之男、天の石屋戸」 (5) 「八岐の大蛇退治、出雲神話」 (6) 「大国主神、根国訪問」 (7) 「天孫降臨、木花佐久夜毘売」 (8) 「海幸彦と山幸彦、海神の宮訪問」 5. 『古事記』『婚姻伝承』を読む(12) (1) 婚姻伝承 (2) 神話の結婚 (3) 垂仁天皇と沙本毘売命・比婆須比売命 (4) 倭建命と弟橘比売命・美夜受比売 (5) 仁徳天皇と黒日比・八田若郎女・女鳥			日本文化の基層をなす神話について学ぶ。 A1:3, A3:1-2 様々な神話の中で問題点は何かを考える。 B1:1-2 自分の考えを要領よくまとめる。 B2:1-2 説明内容を理解させる工夫をする。 B3:1-3			
	後期末試験						
	6. 試験問題の解答(1)						
評価方法	評価の内訳: 定期試験 60%, 提出物 20%, 授業内演習 20%						
履修要件	特になし。						
関連科目	国語Ⅰ(1年)→国語Ⅱ(2年)→国語Ⅲ(3年)→文学特論Ⅱ(4年)→文学特論(専攻科2年)						
教材	教科書: 年表資料 上代文学史—古代日本文学を知るための最適ガイド 笠間書院 金井清一・小野寛編 また, プリント等を適宜配布する。						
備考	「万葉集」授業担当者は東城, 「古事記」授業担当者は富士原。						

科目名	数学概論 I Mathematics Seminar I			担当教員	南貴之, 橋本竜太		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220039	単位区別	履修
学習目標	一変数および多変数の微分積分学の復習を通じて学力の向上を図り, 編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入入学するのに十分な実力を養成する。						
進め方	問題を解く練習を通じて既習内容の復習・補完をし, 数学の学力の向上と定着を図ると共に本校への編入学生や大学へ編入入学を希望する学生の指導に資する。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 多変数関数の微分積分(7) (1) 偏微分の計算とその応用(2) (2) 重積分の計算とその応用(4)			偏微分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3 重積分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3			
	----- [前期中間試験](2)						
	(3) 試験問題の解答(1) 2. 極限と微分法(8) (1) 関数の極限(1) (2) 導関数, 微分法(2) (3) 関数の展開, 級数の収束性(2) (4) 微分法の応用(2)			関数の極限の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3 一変数関数の微分が計算でき, それらの応用ができる。 D1:3 級数の収束・発散の判定およびそれらの応用ができる。 D1:3			
	前期末試験						
	(5) 試験問題の解答(1) 3. 積分法(15) (1) 不定積分の計算(3) (2) 定積分の計算(2) (3) 積分の応用 1 (2)			一変数の積分の計算ができる。 D1:3			
	----- [後期中間試験](2)						
	(4) 試験問題の解答(1) (5) 積分の応用 2 (4) (6) 広義積分(2)			一変数の積分の応用ができる。 D1:3			
後期末試験							
(7) 試験問題の解答(1)							
評価方法	定期試験 90%, レポート等 10%の比率で総合的に評価する。講義妨害行為は減点措置の対象。						
履修要件	特になし。						
関連科目	{基礎数学 I II III, 微分積分学 I II, 数学解析} → <u>数学概論 I</u>						
教 材	教員作成プリント。第 3 学年までに使用した数学教科書や問題集。						
備 考	講義時間外の演習なしでの単位取得は無理と心得ること。講義内容への集中を妨げる行為は御法度。						

科目名	数学概論Ⅱ Mathematics Seminar II			担当教員	田村恭士		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220040	単位区別	履修
学習目標	複素関数の解析学, すなわち複素関数論は, 理工学において広い応用をもつことから, 基礎的な教養として一度学んでおく必要がある。本科目では, 実関数の積分への応用を主要なテーマとして, 複素関数論への入門となる内容を学習する。その学習を通して, 計算力の強化および数学的論理思考能力の養成を目指す。						
進め方	指定教科書に沿って学習内容を解説していく講義形式。小テストやレポート作成を通して学習内容の定着を図る。各自の自主的な予習復習は必須。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 複素数と複素関数(7) (1) 複素数の四則演算 (2) 2次方程式や高次方程式の求解 (3) 複素数平面と四則演算 (4) 極形式, 複素数のべき乗 (5) ドモアブルの定理, 1のべき根 (6) 指数関数や三角関数 ----- [前期中間試験](2)			複素数の基本的な計算ができる。 D1:2			
	2. 曲線と複素関数の微積分(8) (1) 正則関数 (2) コーシー・リーマンの微分方程式 (3) 複素関数の複素微分 (4) 曲線の媒介変数表示 (5) 実変数複素関数の微積分 (6) 複素積分の定義 (7) 復習: 正則関数と複素微分 前期末試験			基本的な複素関数の微積分が計算できる。 D1:2			
	3. 複素積分と留数定理(7) (1) 多項式や有理式の一周積分 (2) コーシーの積分定理と積分公式 (3) グルサの公式 (4) 極, 留数, 留数定理 (5) 有理式の留数定理 (6) 三角関数の有理式の実積分への応用 ----- [後期中間試験](2)			コーシーの積分定理を理解する。 D1:3 留数の基本的な計算ができる。 D1:2			
	4. 複素積分の応用(7) (1) 複素関数の評価 (2) 複素積分の評価 (3) 有理式の無限積分の計算 (4) 三角関数を含む無限積分の計算 (5) 復習: 複素積分の実積分への応用 後期末試験			複素積分を利用して実積分を計算できる。 D1:3			
	(6) 試験問題の解答(1)						
評価方法	定期試験 80%およびレポート 20%で総合評価する。ただし, 比率は目安であり, 受講生の受講状況を踏まえて変更することがあり得る。受講姿勢の不良な学生の評価は行わない。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学ⅠⅡⅢ, 微分積分学ⅠⅡ, 数学解析} → <u>数学概論Ⅱ</u> ← { <u>数学概論Ⅰ</u> , 応用数学}						
教材	教科書: 今吉洋一「複素関数概説」(サイエンス社) 参考書: 高等学校「(旧課程) 数学Ⅱ」の教科書や参考書 参考書: 「応用数学」(大日本図書)						
備考	内容が難しいので, 問題演習を積極的に行うこと。						

科目名	英語特論 I English for Specific Purposes I		担当教員	出淵幹郎・鳥越秀知・鳥越洋子			
学年	3年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220041	単位区別	履修単位
学習目標	<p>英語習得には一定量以上のインプットが欠かせない。この授業では200ページ以上の英語を短期間で読むこと、リスニング教材を大量に聴くことを通し、日本語を介さず英語を直解する力を身につけることを目標とする。</p> <p>オーセンティックで洗練された英語を読むことで英語に対する感覚を養う。原書読書を通して英語圏の国の子ども文化に触れ、理解を深める。</p> <p>小テストに英語で解答し、解答した英文の添削を受けることでライティング能力を身につける。</p>						
進め方	<p>1. 週1時間は40人クラスで英米の児童、ヤングアダルト向けの短編読み物を学生との対話形式で読み進める。読んだ読み物の内容について英問英答式の小テストに解答する。</p> <p>2. 週1時間はクラスを2グループに分け、20人クラスで、リスニングと多読活動を行う。</p>						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	Sideways Stories from Wayside School 5 まで (5) 20人クラスでリスニングと多読 (7) 英問英答小テスト (2)			Written English, Spoken English を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。それがそのまま TOEIC 対策となる。 小テストに英語で解答することでモデルを利用して正しい英文を書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	[前期中間試験] (1)						
	Sideways Stories from Wayside School 12 まで (6) 20人クラスでリスニングと多読 (7) 英問英答小テスト (2)			Written English, Spoken English を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。それがそのまま TOEIC 対策となる。 小テストに英語で解答することでモデルを利用して正しい英文を書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	前期末試験						
	Sideways Stories from Wayside School 17 まで (5) 20人クラスでリスニングと多読 (7) 英問英答小テスト (2)			Written English, Spoken English を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。それがそのまま TOEIC 対策となる。 小テストに英語で解答することでモデルを利用して正しい英文を書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	[後期中間試験] (1)						
Sideways Stories from Wayside School 23 まで (6) 20人クラスでリスニングと多読 (7) 英問英答小テスト (2)			Written English, Spoken English を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。それがそのまま TOEIC 対策となる。 小テストに英語で解答することでモデルを利用して正しい英文を書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2				
後期末試験							
評価方法	<p>年4回の定期試験を80%、小テスト20%の比率で総合評価を行う。</p> <p>10月に実施する TOEIC IP の結果を学年末評価に15%程度加える。</p> <p>年間4回希望者対象に実施する TOEIC IP の結果をプラス評価する。</p>						
履修要件	特になし						
関連科目	英語ⅢA、英語ⅢB など3年生までの英語科目						
教材	『Sideways Stories from Wayside School』 Louis Sachar (Harper Trophy)、多読教材、ハンドアウト 『Hyper Listening Intermediate 3rd Edition』 (桐原書店)						
備考	オフィスアワーは放課後随時 (6時までに来室のこと)						

科目名	中国語 I Chinese I			担当教員	張 文・前崎 麗		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220042	単位区別	履修
学習目標	中国語の発音、日常用語、基礎的な文法を学習し、簡単な会話と文章を書ける能力を養成する。また中国語の学習を通じて中国社会のことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに、学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に、繰り返し練習を行い、現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。前期は、中国語の入門（発音・語彙、日常用語、簡単な文法）を行い、後期は実用的文法（簡単な会話、簡単な文章）を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	オリエンテーション、中国語概説	(2)		1~7			
	発音	(6)		中国語の特徴、学習法を習得し、発音を身につける。	B1:1, B2:1		
	軽声、声調の変化	(2)					
	「是」の構文、人称代名詞	(2)					
	副詞 「也」「都」、疑問詞疑問文	(2)					
	[前期中間試験]	(1)					
	動詞述語文、反復疑問文	(2)		9~13			
	形容詞述語文、形容詞を修飾する副詞	(2)		あいさつなど定型的な日常会話の語彙・文法を理解することができ会話をおこなえる。	B1:2, B2:2		
	選択疑問文	(2)					
比較文、助動詞「要」	(2)						
「在」の構文	(2)						
「有」の構文	(2)						
前期の学習をまとめ	(2)						
前期末試験							
試験の解答並びに授業評価アンケート	(2)		16~18				
年月日の言い方、時刻の言い方	(2)		日常的な会話にでてくる単語や文法を理解し会話ができる。	B1:2, B2:2			
「了」の表現	(6)						
進行形の表し方	(2)						
結果補語、持続状態を表す「着」	(2)						
[後期中間試験]	(1)						
助動詞「会」	(4)		19~24				
経験の「過」	(2)		状況に応じた簡単な会話ができる。	B1:2, B2:2			
補語「得」	(2)						
助動詞「能」	(4)						
後期の学習をまとめ	(3)						
後期末試験							
答案返却・解答	(1)						
評価方法	定期試験 80%， 取組態度・課題などを 20%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教 材	「一年生のころ（ビデオで学ぶ入門中国語）」改訂版						
備 考	特になし						

科目名	社会特論 I Social Science I			担当教員	石丸 健		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220043	単位区別	履修
学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊、人口爆発と貧困、グローバル経済と諸紛争、テクノロジーの発達に起因する負の影響など、諸問題が山積している。このような諸問題が即、日常生活レベルと通底していることが極めて現代的特徴であり、今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められている時代は他にない。豊富な思考資料の下、豊かな試行錯誤を心掛けたい。						
進め方	個体発生は系統発生を要約して繰り返す（ハック）と言われるように、個人の精神史と世界のそれとは局面はどうであれ関連している。哲学概説を兼ねて哲学する意味を考えたい。世界内存在としての自己と諸問題、そして哲学的知の拡がりに思いを馳せる。西洋哲学史を歴史的に鳥瞰しつつ哲学と時代を考察する。（時代を生きること 哲学と人生）						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 個人史としての哲学(哲学概説) (4)			自己を形成している精神内容を見つめる眼と 他者理解の態度を涵養する。 A1:3			
	2. 現代世界の諸問題と哲学(6)			世界の諸問題と世界内存在としての自己。 A1 :3			
	3. 哲学知のさまざまなあり方(4)			さまざまな知的在り方があること理解する。 A1:3			
	4. 西洋哲学史概説(12) …神話 ソクラテス以前 ソクラテス,プラトン,アリストテレス ヘレニズム哲学 神学			歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し,時代の役割を果たした事を知る。 A3:1 境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする。 A1:3			
	----- 前期期末試験						
	5. 答案返却・解答(1)			哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産出した西洋哲学の特性について考える。 A1:3			
	6. 近代哲学と科学的思考そして現代哲学へ(18) デカルト 大陸合理論 イギリス経験論 カント,ヘーゲル,キルケゴール,マルクス ニーチェ etc			現代哲学の思考特性について考える。 A1:3 混迷の度を深める現代世界,総合知・世界観としての哲学の重要性を知る。 A1:3 世界の偉大な知的伝統の十字路である日本とは何か …。 A1:3			
	7. 現代哲学(6) フッサール ハイデガー						
	8. 総合知、世界観としての哲学(4)						
9. Philosophy と哲学（東洋的形而上学）(4)							
後期期末試験							
10. 答案返却・解答(1)							
評価方法	定期試験を主たる評価とする。 意見発表など積極的に授業参加した者に対しては評価をする。						
履修要件	特になし。						
関連科目	特になし。						
教 材	教科書：なし 参考書：ヨースン・ゴルドン著「ソフィーの世界」NHK 出版 木田 元 著「反哲学史」講談社学術文庫 木田 元 著「闇屋になりそこねた哲学者」晶文社 西 研 著「大人のための哲学授業」大和書房 竹田青嗣 著「中学生からの哲学『超』入門」ちくまプリマー新書						
備 考	テーマによっては映像を使用することもある。						

第 5 学 年

科目名	自然特論 Topics in Natural Science			担当教員	木村祐介		
学 年	5 年	学 期	前期	履修条件	選択	単位数	1
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220044	単位区別	履修
学習目標	現代科学の基礎理論の一つである量子論について学ぶ。量子論はミクロな世界を記述する最も基本的な理論であり、それを通して自然界の構成についての理解を深める。						
進め方	講義により基本的な事柄を説明する。また理解度を把握するために、問題を解いてもらう、レポートを出してもらうなども行う。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 量子論とは何か(2) 2. 光の粒子性(2) 3. 粒子の波動性(2) 4. 不確定性原理(2) 5. 波動力学(2) 6. シュレーディンガー方程式(2) 7. 運動量空間(2) 8. 確率解釈(2)			量子力学の基本的な考えを理解する。D1:1 波動性と粒子性について理解する。D1:1 シュレーディンガー方程式の導出を理解する。D1:1.2			
	9. [前期中間試験](2)						
	10. 試験問題の解答(2) 11. 演算子と物理量 I (2) 12. 演算子と物理量 II (2) 13. 一次元系のシュレーディンガー方程式 I (2) 14. 一次元系のシュレーディンガー方程式 II (2) 15. 調和振動子(2)			量子力学において物理量がどのように与えられるか理解する。D1:1,2 簡単なシュレーディンガー方程式が解けるようになる。D1:1,2			
	16. 前期末試験						
	17. 試験問題の解答(2)						
評価方法	定期試験 80%、残りの 20%はレポートなどにより評価する。授業態度も評価に入れ、私語は減点の対象とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	物理, 応用物理 I, 応用物理 II						
教 材	量子力学 I (講談社基礎物理学シリーズ、原田・杉山著)、量子力学の考え方 (岩波書店、砂川著)						
備 考							

科目名	英語特論Ⅱ English for Specific Purposes Ⅱ		担当教員	未定			
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220046	単位区別	履修
学習目標	TOEIC IP において 350 点（公開試験 400 点）程度の得点をクリアするべき目標に置き、学年末の TOEIC IP で少しでも高得点を目指す。						
進め方	前半 45 分をリスニング、後半 45 分をリーディングと文法・語彙の学習に当てる。 後期中間試験までは基礎的学習を行い、後期中間試験以後は TOEIC に特化した学習を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	Tactics for Listening BASIC Unit 1~7 (7) A Complete College English Program Book 1 (7) ----- [前期中間試験] (1)			ESL リスニング教材や英米のポップソングの内容が自然に理解できる。 教科書の語彙や文法事項、コロケーションを完全に理解できる。 B1:1-2 B2:2			
	Tactics for Listening BASIC Unit 8~14 (7) A Complete College English Program Book 2 (8) 前期末試験			ESL リスニング教材や英米のポップソングの内容が自然に理解できる。 教科書の語彙や文法事項、コロケーションを完全に理解できる。 B1:1-2 B2:2			
	Tactics for Listening BASIC Unit 15~21 (7) A Complete College English Program Book 3 (7) ----- [後期中間試験] (1)			ESL リスニング教材や英米のポップソングの内容が自然に理解できる。 教科書の語彙や文法事項、コロケーションを完全に理解できる。 B1:1-2 B2:2			
	TOEIC Part 1, 2 の実践と対策 (6) TOEIC Part 3, 4 の実践と対策 (2) TOEIC Part 5 の実践と対策 (5) TOEIC Part 6 の実践と対策 (2) [後期末試験] (3) (TOEIC IP)			TOEIC Part 1, 2 に 60%程度、Part 3, 4 に 40%程度正解できる。 TOEIC Part 5, 6 に 40%程度正解できる。 B1:1-2 B2:2			
	前期中間試験 20%、前期末試験 20%で、後期中間試験 20%、後期末試験 40%で評価する。 後期末試験は TOEIC IP を受験する。 前期中間試験～後期中間試験 3 回の平均点か後期末試験のどちらか片方が 60 点以上であれば 4 回の試験の平均点が 60 点以下でも合格最低点を与える。						
	履修要件	特になし					
関連科目	英語特論Ⅰ						
教材	『A Complete College English Program Book 1~3』 金星堂 『Tactics for Listening BASIC』 Jack C. Richards Oxford University Press ハンドアウト教材						
備考	特になし						

科目名	中国語 II Chinese II			担当教員	前崎 麗		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220047	単位区別	履修単位
学習目標	中国語 I で学習した中国語の発音, 日常用語, 基礎的な文法と簡単な会話と文章構築能力を基に, 中国語の能力をさらに向上させる。また中国語の学習を通じて中国社会のことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに, 学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に, 繰り返し練習を行い, 現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	中国の朝食 A	(2)		1~3	基本的な文法項目 (1) を習得し簡単な文章を構築する力, 簡単な会話力をつける。B1:1, B2:1		
	中国の朝食 B	(2)					
	服をオーダーメイドする A	(2)					
	服をオーダーメイドする B	(2)					
	‘贅沢’な映画 A	(2)					
	‘贅沢’な映画 B	(2)					
	割り勘 A	(2)					
	[前期中間試験]	(1)					
	答案返却・解答 割り勘 B	(2)		4~7	基本的な文法項目 (2) を習得し簡単な文章を構築する力, 簡単な会話力をつける。B1:2, B2:2		
	お腹を壊す	(2)					
	お腹を壊す	(2)					
携帯電話がなくなった A	(2)						
携帯電話がなくなった B	(2)						
席取り A	(2)						
席取り B	(3)						
前期末試験							
答案返却・解答	(2)		8~10	基本的な文法項目 (3) を習得し簡単な文章を構築する力, 簡単な会話力をつける。B1:2, B2:2			
ネット恋愛 A	(2)						
ネット恋愛 B	(2)						
感謝を表す習慣 A	(2)						
感謝を表す習慣 A	(2)						
1人っ子政策 A	(2)						
2人っ子政策 A	(2)						
[後期中間試験]	(1)						
答案返却・解答	(2)		11~12	基本的な文法項目 (4) を習得し簡単な文章を構築する力, 簡単な会話力をつける。B1:2, B2:2			
若い者の就職観 A	(2)						
若い者の就職観 A	(2)						
若い者の就職観 A	(2)						
私の中国語学習に対して新しい認識 A	(2)						
私の中国語学習に対して新しい認識 A	(2)						
後期の学習のまとめ並びに授業評価アンケート	(1)						
後期末試験							
答案返却・解答	(2)						
評価方法	定期試験 80%, 取組態度・課題などを 20%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書: 内田 慶市 など著 「中国語への道」 準中級編 (CD付) 金星堂						
備考	特になし						

科目名	社会特論Ⅱ Social Science II			担当教員	山岡健次郎		
学 年	5 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220048	単位区別	履修
学習目標	法学の基礎を学ぶ。 前期では、憲法についての原理的理解を深める。 後期は、私たちの日常と関わりの深い民法についての基礎知識を身につける。						
進め方	講義形式で行う。 テーマを設定し、学生間での討論も取り入れていく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. イントロダクション (2) 2. 法とはなにか (3) 3. 憲法とはなにか (2) 4. 立憲主義と現代国家, 法の支配 (2) 5. 国民主権の原理 (2) 6. 基本的人権の原理 (2) 7. 基本的人権の限界 (2)			法についての原理的な理解を深める A3:1		憲法の根本原理を把握する A3:1	
	[前期中間試験] (2)						
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 精神的自由権 (2) 10. 経済的自由権, 人身の自由 (2) 11. 社会権 (2) 12. 権力分立 (2) 13. 統治機構について (2) 14. 憲法保障 (2) 15. 平和主義の原理 (2)			基本的人権と公共の福祉との関係性についての理解を深める A3:3		統治の仕組みを説明できる A3:2	
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答 (1) 17. 民法とはなにか (2) 18. 財産法の仕組み (2) 19. 契約主体 (2) 20. 契約の有効要件 (2) 21. 契約の効果帰属要件 (2) 22. 物権の客体 (2) 23. 占有権・所有権 (2)			財産法の仕組みを理解する A3:1		事例に即して契約のあり方を把握する A3:3	
	[後期中間試験] (2)						
	24. 答案返却・解答 (1) 25. 債権の発生と消滅 (3) 26. 債務不履行 (3) 27. 債権の履行確保の手段 (2) 28. 家族法 (3) 29. まとめ (2)			債権と債務の法的関係性を把握する A3:2		家族法の基礎を学ぶ A3:1	
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答 (1)						
評価方法	4回の定期試験の平均点によって評価。						
履修要件	特になし						
関連科目	政治経済 (3年)						
教 材	教科書：伊藤真 著『伊藤真の憲法入門』『伊藤真の民法入門』日本評論社						
備 考	特になし						

科目名	保健・体育V Health and Physical Education V			担当教員	有馬弘智, 横山 学		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	13220049	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は下級生の時に修得しているので、ゲーム中心の内容で授業を行う。その中で各種 目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度を 取り入れ、自分の興味のある種目を選択させることで、社会体育への継続を目指す。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【スポーツテスト】 2. 記録測定(3) ----- [前期中間試験]			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえ るようになる。 F2:1-4 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
	【ソフトボール・ゴルフ・ バドミントン選択】 3. 選択授業の説明、種目の決定(1) 4. ゲーム(9) 5. 実技試験(1) 前期末試験			選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目 を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、 正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の 向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	【サッカー・バスケットボール・ ソフトバレーボール選択】 6. 選択授業の説明、種目の決定(1) 7. ゲーム(7) ----- [後期中間試験]			選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目 を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、 正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の 向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	8. ゲーム(6) 9. 実技試験(1) 後期末試験						
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	海外英語演習 Overseas English Program			担当教員	未定		
学年	5年	学期	長期休業中	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	実習	科目番号	13220050	単位区別	履修
学習目標	本校と交流協定を結んだ海外の大学、高専に設置された語学学校でネイティブスピーカーによる英語の授業を受けるとともに、ホームステイなどのESL situation で生活に密着した生きた英語を学び、サバイバルイングリッシュを身につける。						
進め方	上記語学学校で3週間程度の授業プログラムを受講するのみならず、施設見学や週末の小旅行、ホームステイ等英語に囲まれた生活を経験する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1、引率教員による事前指導を受講する。 2、協定校の語学学校への Application Form に記入する。 3、ホームステイ先に自己紹介の手紙（メール）を書き、送る。 4、協定校の語学学校で3週間程度の授業プログラムを受講する。（プログラム詳細未定） 5、4の期間に計画される施設見学、小旅行、パーティーなどに参加する。 6、帰国後ホームステイ先にお礼の手紙（メール）を書き、送る。 7、4、5全般についてのレポートを英文で作成し引率教員に提出する。			コミュニケーションの手段としての英語力を育成する。 B1:1,2 B2:1,2			
評価方法	合否で行う。 参加した学生は原則合格とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	他の英語関連教科						
教材	語学学校においては当地の教員が準備したハンドアウトを教材として用いる。						
備考	特になし						

科目名	教育支援活動 Teaching Support Activity			担当教員	教育支援活動担当教員		
学年	1,2,3,4,5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	実験・実習	科目番号	13220051	単位区別	履修単位
学習目標	<p>体験入学，オープンキャンパス，理科学支援教育，地域連携イベントなど各種学校行事への参加を通して，授業等で習得した知識や技術の確認，教育支援活動を行う上で必要な知識や技術を習得することを目標とする。また，活動の参加者同士による共同作業を遂行する能力やコミュニケーション能力を養成することを目標とする。この単位は，行事等において，一般人を対象に，学習により習得した知識や技術を十分に発揮することに意義を求めている。</p>						
進め方	<p>各種学校行事に参加するため，事前に必要な知識や技術を研究する。授業等で既習得の内容に関しては復習を行い，未習得の内容に関しては，担当教員の指導下で，参加者同士協力しながら学習し，必要な知識や技術を習得する。行事参加時，習得した知識や技術を十分に活用し，他の参加者と協力して，行事を活発化する。</p>						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	<p>1各種学校行事への参加目的を理解する。</p> <p>2 教育支援活動を行う上で必要になる知識や技術について，授業等で既習得の内容を復習し，未習得の知識や技能を学習する。</p> <p>3各種学校行事に参加するための心構えなどの事前のガイダンスを受ける。</p> <p>4 授業時間外において，各種学校行事に参加するための準備も含めて各学生が30時間以上の活動を行う。</p>			<p>各種学校行事への参加の目的を理解している。 E1:1</p> <p>事前研究を行い，授業等で学んだ内容を確認する。新しい内容を学習する。 C1:1,D3:1,2</p> <p>各種学校行事への参加の目的を再確認する。</p> <p>習得した知識や技術を十分に活用する。他の参加者と協力して共同作業を行い，行事を活発化する。 B1:1,2,B2:1,2,B3:1-3,D3:1,E1:1,2,E5:1,2,E6:1-3</p>			
評価方法	教育支援活動証明書により評価を行う。						
関連科目							
教材							
備考	遅刻・欠席等で他の参加者に迷惑をかけない。挨拶等の社会ルールを守る。行事の担当教員の指示に従い，事故に注意し，本校学生として常識のある行動をする。						

科目名	日本語 Japanese			担当教員	須賀 淳子		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13240001	単位区別	履修
学習目標	日本の文化・習慣・歴史・伝説などに触れ、日本への理解を深める。日本語の使い方や漢字の読み書きに習熟する。						
進め方	1000字程度の長文を読み、大意の把握、朗読習熟につとめる。難解な漢字の読み方と、日常使用する漢字の書き方を練習する。日本語でのコミュニケーションのあり方を実践する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. シラバス説明・論述「私の家族」(2) 2. 「日本の姿」(2) 3. 「旅に出かけよう」(2) 4. 論述「日本の生活で不思議に思うこと」(2) 5. 漢字練習(2) 6. 「コミュニケーション・スタイル」(2) 7. 「日本に伝わる不思議な話」(2) 8. 「日本語の発達」(2) 9. 漢字練習(2) 10. 論述「日本人の不思議な習慣」(2) 11. 「社内文書」(2) 12. 漢字練習(2) 13. 論述「私のお国自慢」(2) 14. 「日本式ビジネス交渉術」(2) 15. 漢字練習(2)			日本語で考えや思いを伝える。 B2:1 日本語文章を読解し、習慣や考えを学ぶ。 B1:1-2 漢字を学ぶ。 B1:1-2			
	前期末試験						
	16. 答案返却・論述「日本の生活で困ったこと」(2) 17. 「日本の昔話1」(2) 18. 「日本の昔話2」(2) 19. 漢字練習(2) 20. 「日本の伝統行事1春」(2) 21. 「日本の伝統行事2夏」(2) 22. 「日本の伝統行事3秋」(2) 23. 「日本の伝統行事4冬」(2) 24. 「日本の冠婚葬祭1」(2) 25. 「日本の冠婚葬祭2」(2) 26. 漢字練習(2) 27. 「日本事情1」(2) 28. 「日本事情2」(2) 29. 漢字練習(2)						
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答(2)						
評価方法	年2回の定期試験90%、論述レポート等の提出物10%の比率で評価する。						
履修要件	特になし。						
関連科目	特になし。						
教材	適宜プリント等配布。						
備考	電子辞書を毎回必ず持ってくること。						